

平成27年度実施（平成28年1月～2月） 子どもの権利アンケート結果

■ 調査対象

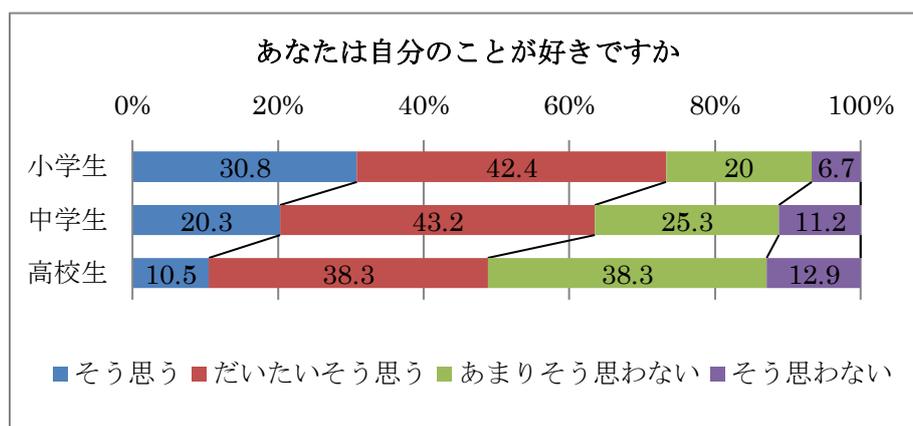
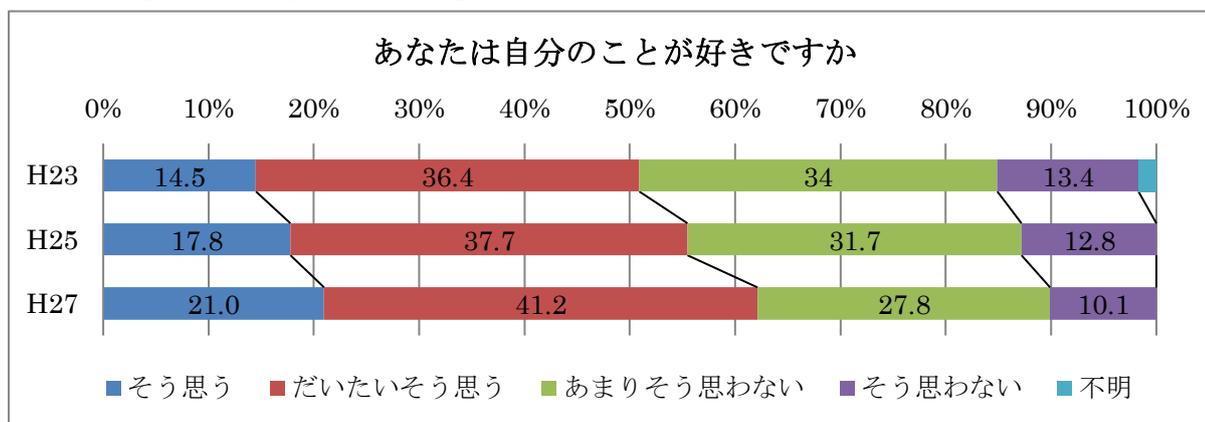
- (1) 市内の小学校 30 校（市立 27 校、国公立 1 校、私立 1 校） 5 学年 1 クラス 743 人
- (2) 市内の中学校 23 校（市立 20 校、国公立 1 校、私立 2 校） 2 学年 1 クラス 512 人
- (3) 市内の高等学校 13 校（県立 7 校、私立 6 校） 1、2 学年のそれぞれ 1 クラス 893 人
- (4) (1)から(3)の児童・生徒（2,148 人）の保護者

■ 子どもの権利アンケートの調査結果

学年	回答人数	回収率	男	女	性別無回答	市内在住	市外在住	居住地無回答
小学生（5年生）	660	89%	332	325	3	650	9	1
中学生（2年生）	424	83%	208	214	2	395	27	2
高校生（1年生）	272	66%	155	110	7	151	119	2
高校生（2年生）	319		169	149	1	192	126	1
学年無回答	61	—	1	5	55	4	4	53
合計	1,736	81%	800	803	68	1392	285	59

[子どもへのアンケート]

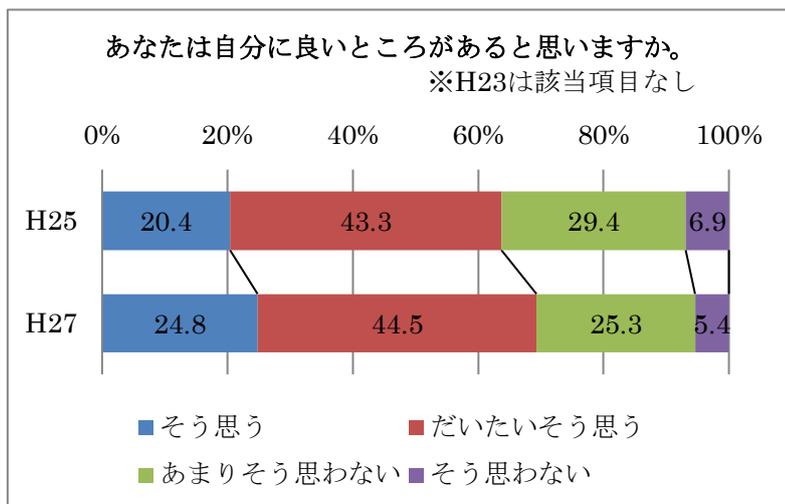
問4 あなたは、自分のことが好きですか



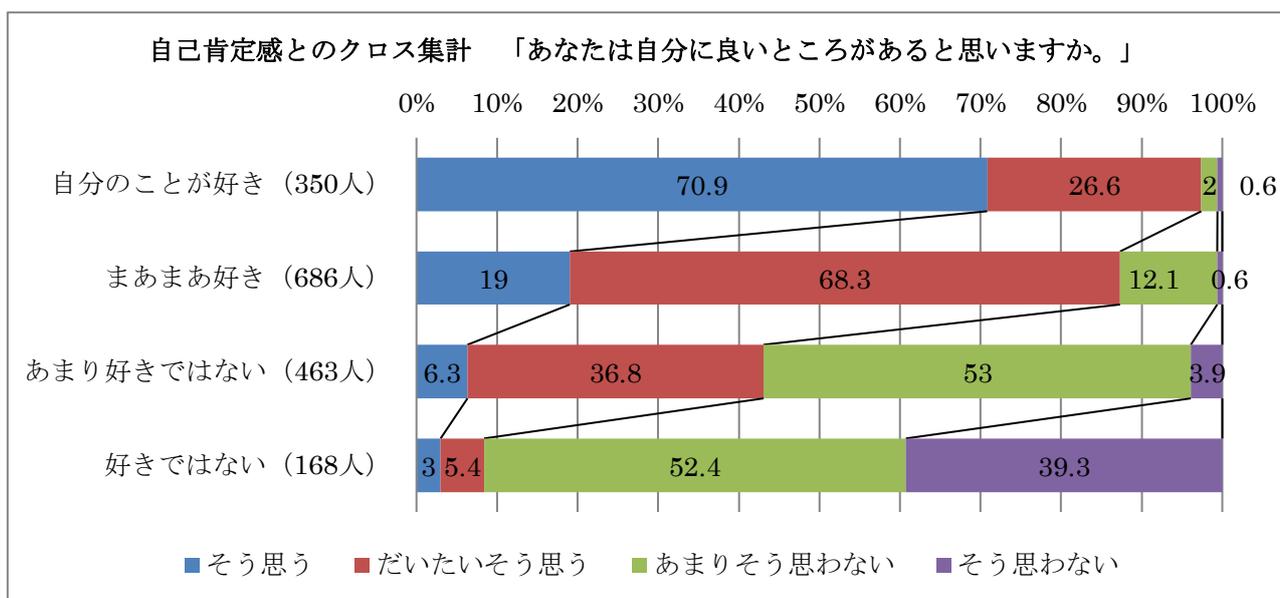
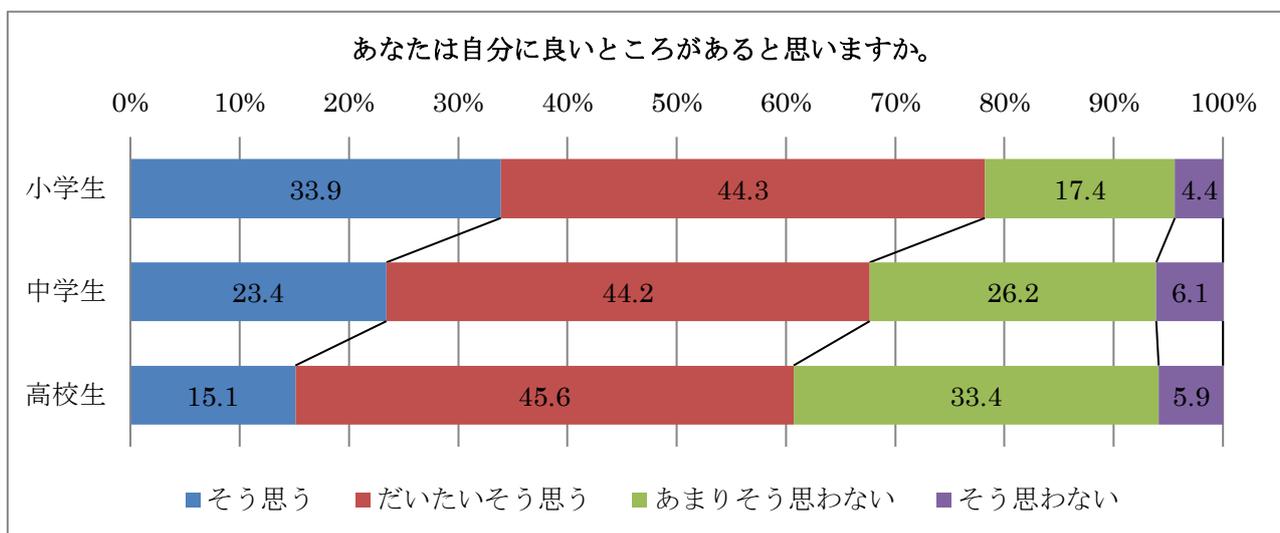
・自分のことが「好き」「だいたい好き」な自己肯定感の高い子どもは、62.2%。前回の調査の55.5%より高くなった。

・年齢が上がるにつれて、自分のことが「好き」「だいたい好き」な子どもの割合が減少する傾向がある。

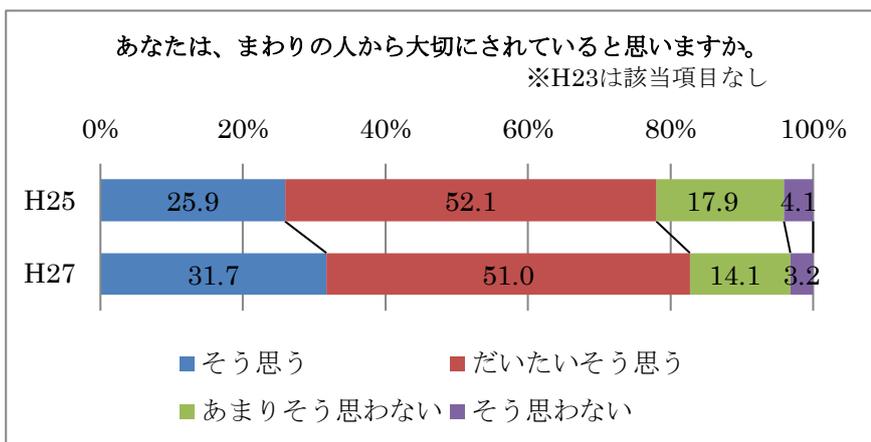
問5 あなたは、自分には良いところがあると思いますか。



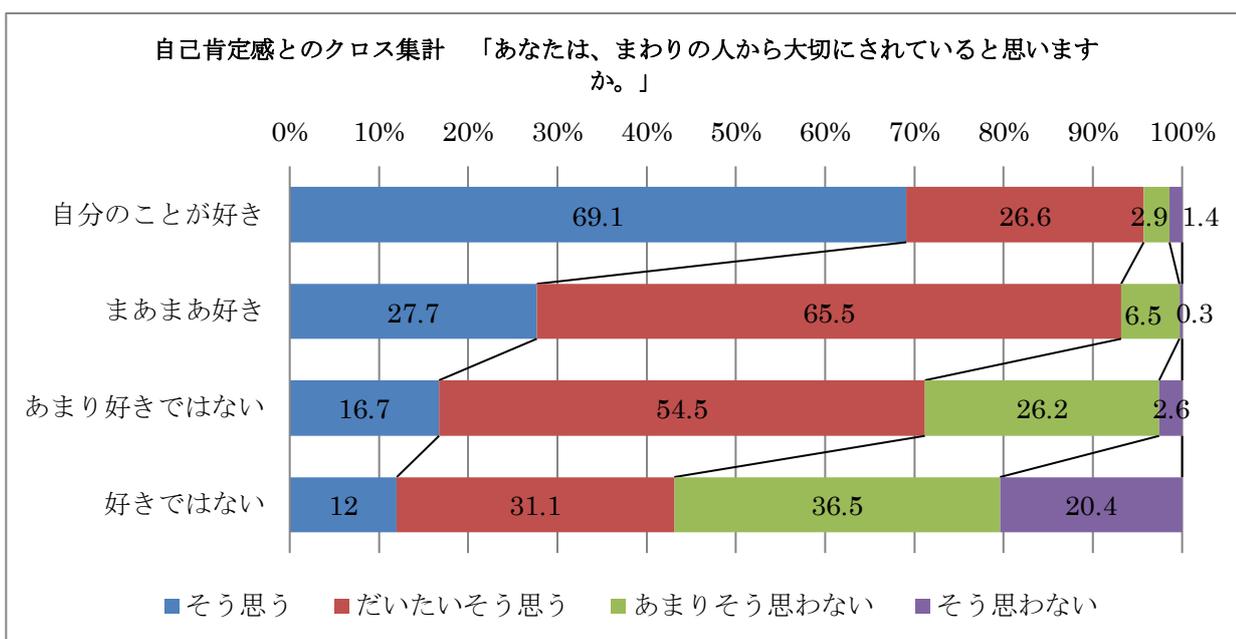
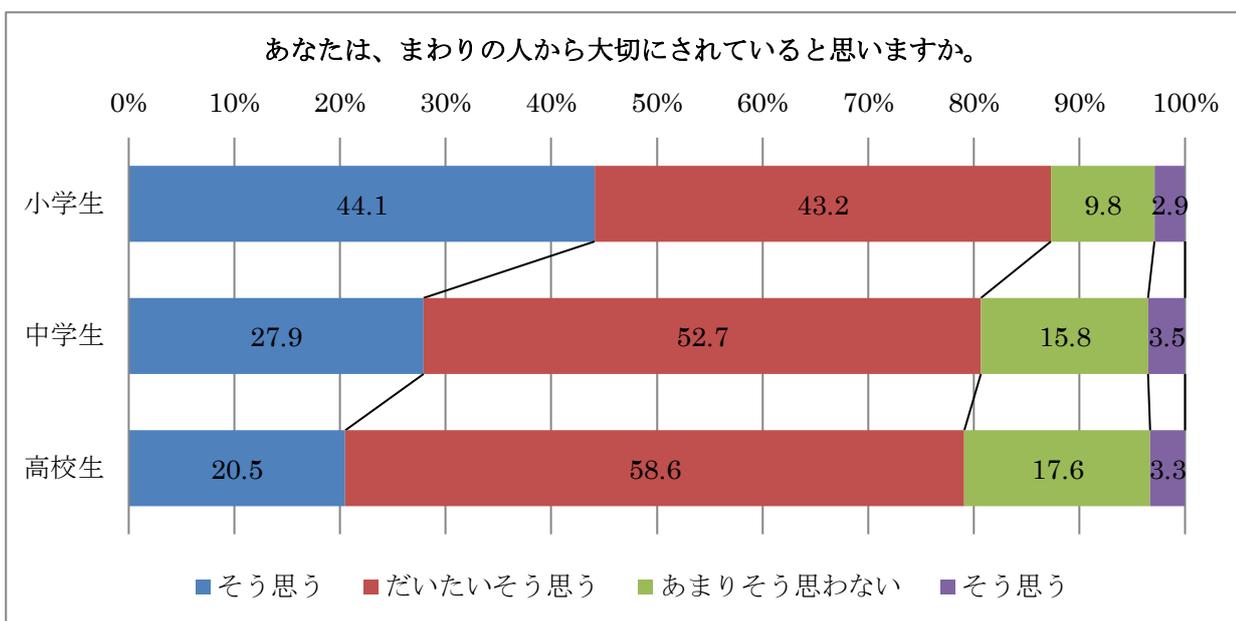
- ・自分には「良いところがある」「だいたいある」と思う子どもは、69.3%。前回調査の、63.7%より高くなった。
- ・年齢が上がるにつれて、自分には「良いところがある、だいたいある」と思う子どもの割合が減少する傾向がある。
- ・自己肯定感の高い子どもは「自分には良いところがある」と考える傾向があり、自己肯定感と強く関係することが窺える。



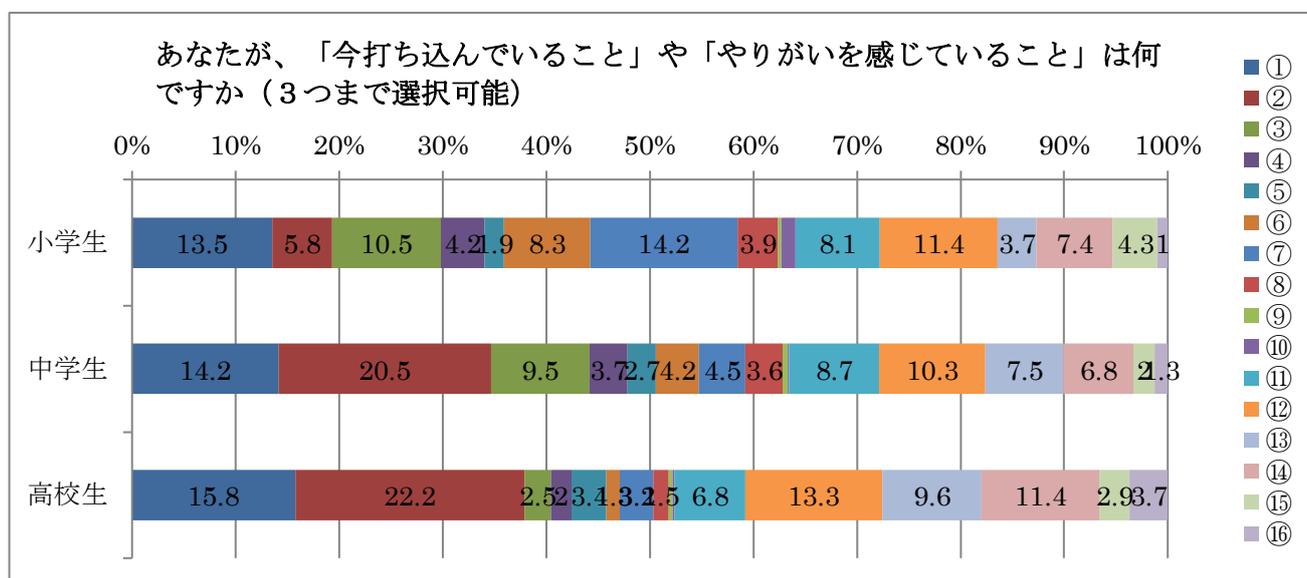
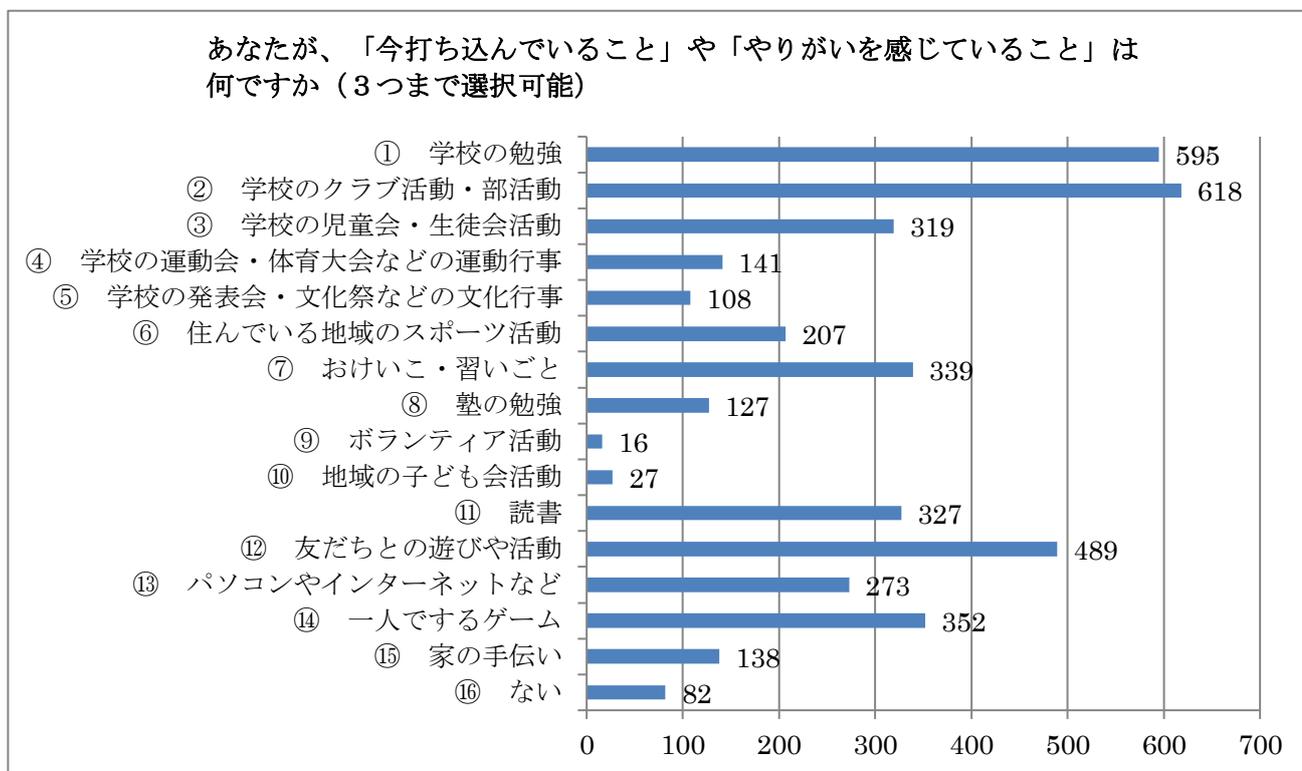
問6 あなたは、まわりの人から大切にされていると思いますか。



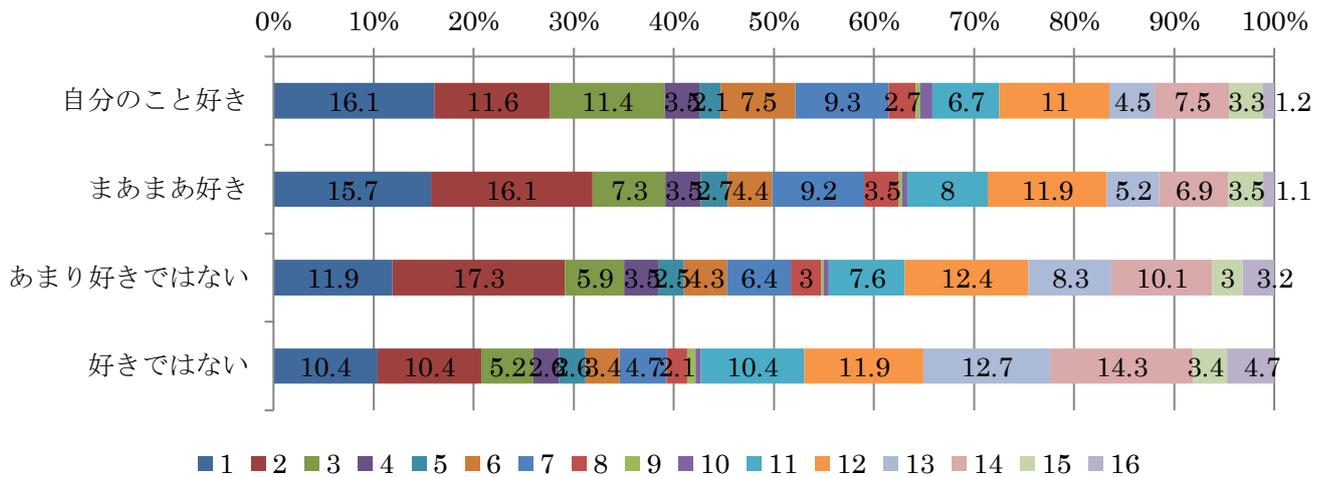
- ・自分は「まわりの人から大切にされている」「だいたい大切にされている」と思う子どもは、82.7%。前回調査の、78.0%より高くなった。
- ・自己肯定感の高い子どもは、自分は「まわりの人から大切にされている、だいたい大切にされている」と考える傾向があり、自己肯定感と強く関係することが窺える。



問7 あなたが、「今打ち込んでいること」や「やりがいを感じていること」は何ですか。  
(3つまで選択可能)



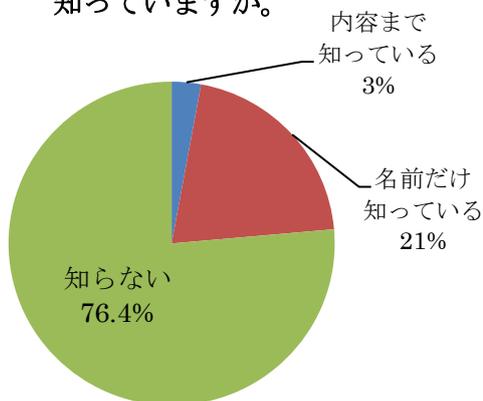
自己肯定感とのクロス集計 「あなたが、『今打ち込んでいること』  
や『やりがいを感じていること』は何ですか（3つまで選択可能）」



- ・「学校のクラブ活動、部活動」「学校の勉強」「友だちとの遊び」の順に回答する子どもが多い。
- ・小学生は、「おけいこ、習いごと」の割合が14.2%と一番高く、「学校のクラブ活動、部活動」の割合は、5.8%と低い。
- ・中学生、高校生になると「学校のクラブ活動、部活動」の割合が、20%以上に増え、一番高くなるのは、部活動が本格化するためと推察される。
- ・小学生、中学生は「学校の児童会・生徒会活動」の割合が10%前後を占めているが、高校生になると、「学校の児童会・生徒会活動」の割合は2.5%と低くなる。
- ・小学生、中学生は「一人でするゲーム」の割合が7%前後だが、高校生になると、「一人でするゲーム」の割合が11.4%と高くなる。
- ・自己肯定感の低い子どもほど、やりがいを感じていることは「㊸ ない」と答える割合が高く、やりがいを感じるものの有無が自己肯定感にも関係している様子が窺える。

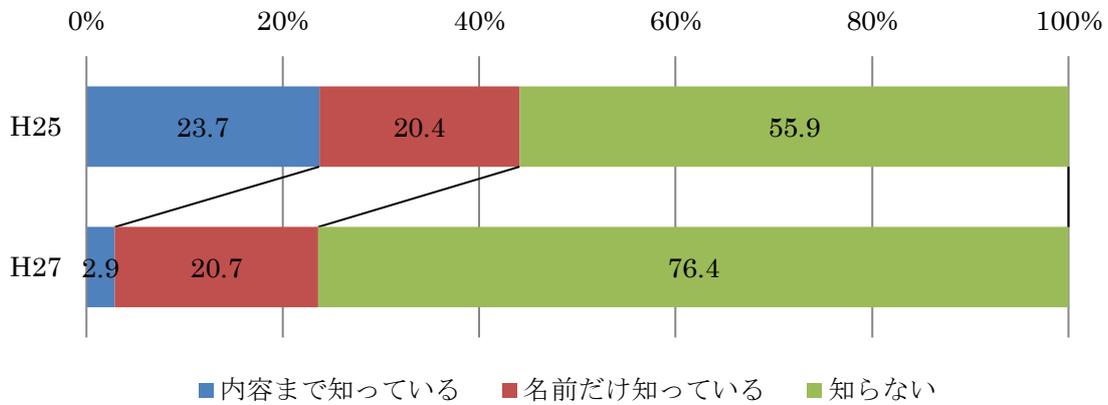
問8 「松本市子どもの権利に関する条例」を知っていますか。

「松本市子どもの権利に関する条例」を知っていますか。

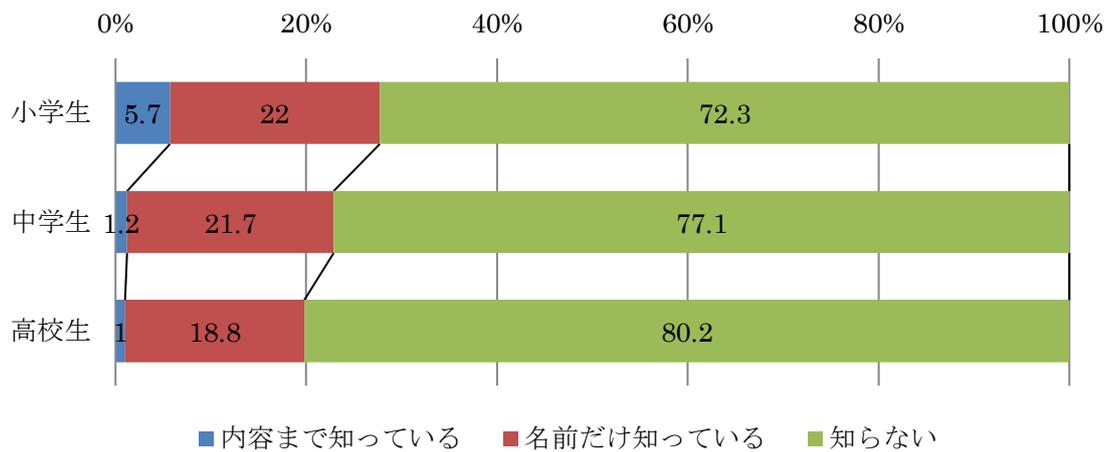


- ・条例の「内容まで知っている」子どもは全体で2.9%と低い割合となっており、前回調査の23.7%を下回ったが、「名前だけ知っている」子どもは全体で20.7%であり、前回調査の20.4%と大きな差異は見受けられなかった。
- ・年齢が上がるにつれて「知っている」と答える子どもの割合は減少する傾向にある。
- ・以上から、条例の周知、特に内容の周知について取り組む必要がある。

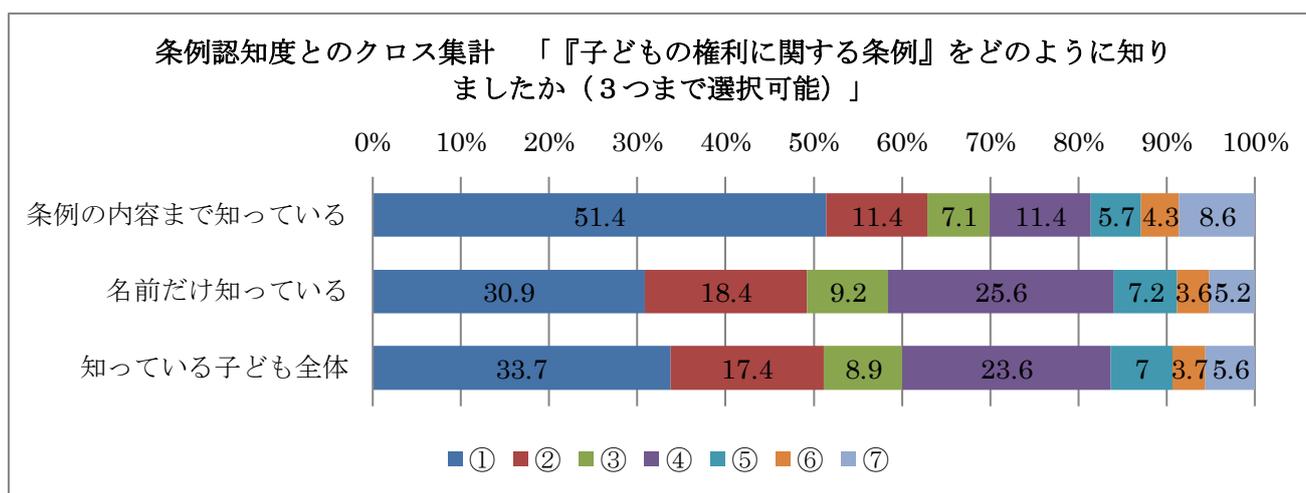
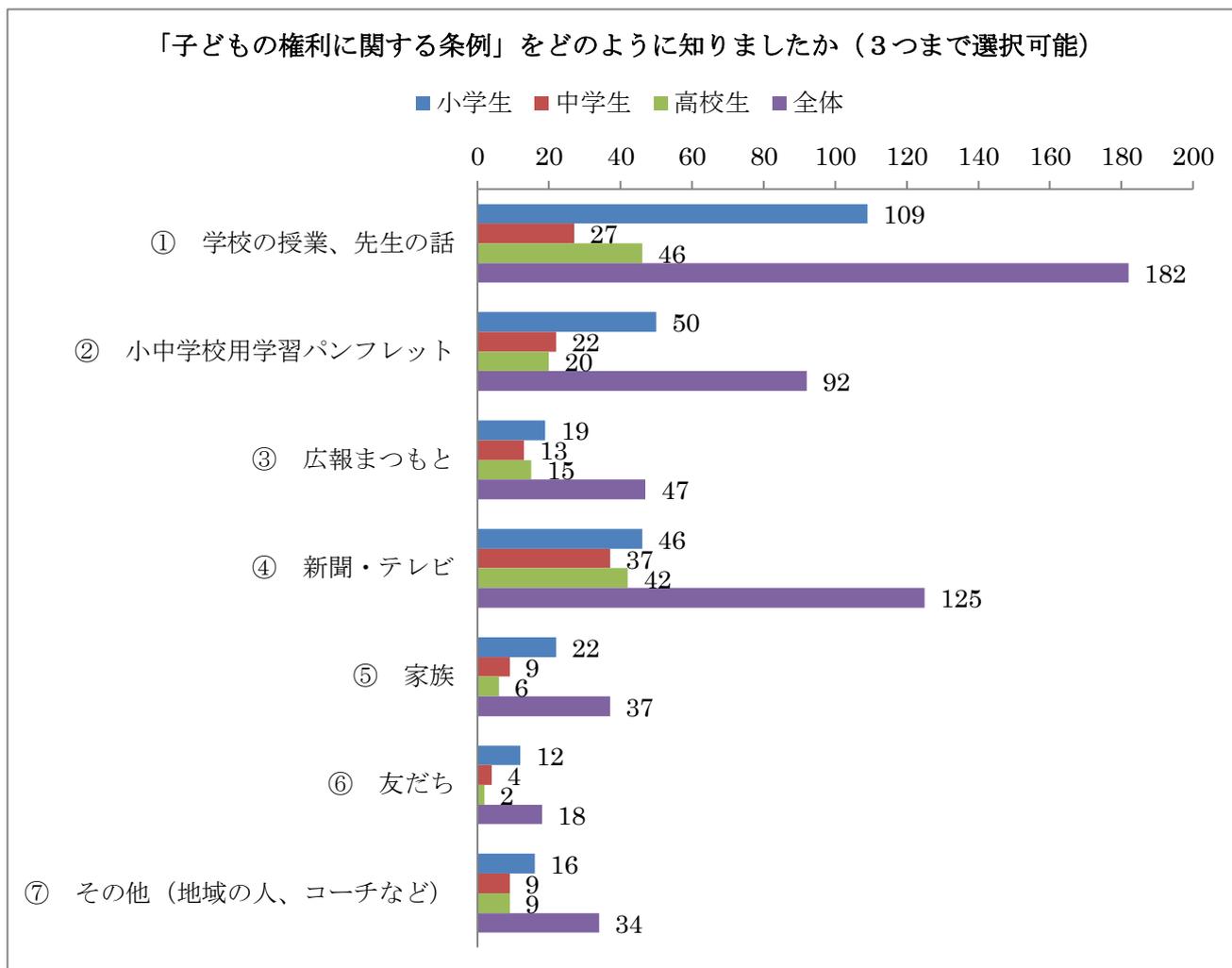
「松本市子どもの権利に関する条例」を知っていますか。  
 ※H23は該当項目なし



「松本市子どもの権利に関する条例」を知っていますか。

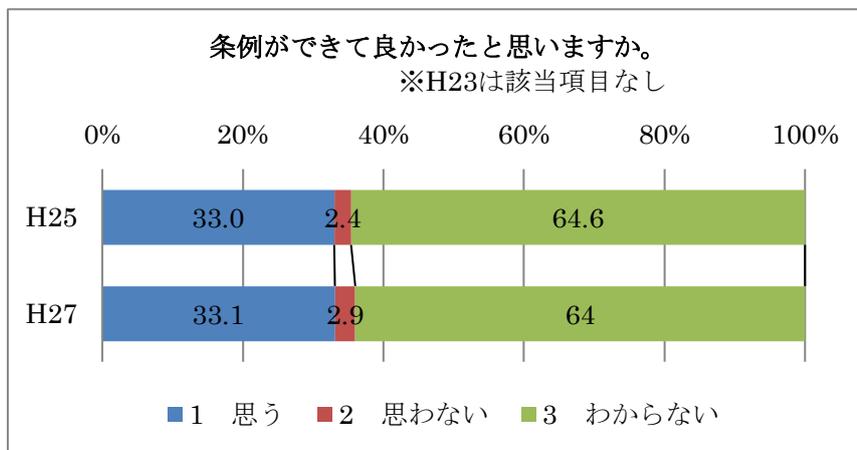
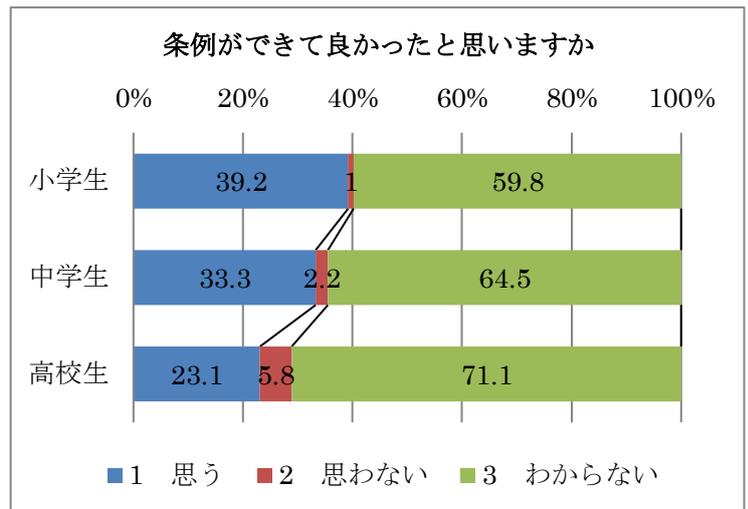
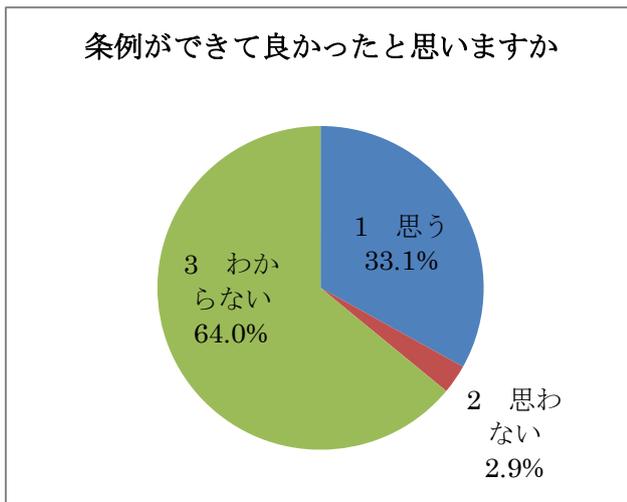


問9 子どもの権利に関する条例をどのような方法で知りましたか。(3つまで選択可能)



- ・ 条例について知った方法は、「学校の授業、先生の話」「新聞・テレビ」「小中学校用学習パンフレット」の順に多く、小学生の多くは、「学校の授業、先生の話」で条例について知ったと回答している。
- ・ 条例の「内容まで知っている」と答えた子どもの半数以上が、「学校の授業、先生の話」により知ったと回答しており、次いで「小中学校用学習パンフレット」と回答する割合が大きいことから、条例の内容については、学校での知る機会の確保が重要である。
- ・ 以上により、学校が子どもたちへの条例周知の場となっていることから、学校で取扱ってもらふ機会の確保や、学校で取扱ってもらうにあたって、子どもたちにも分かりやすい周知パンフレットの作成を進めることが有用である。

問10 条例ができて良かったと思いますか。



問11 条例ができて良かったと「思う」「思わない」と答えた理由は何ですか。(自由記述)

(1) 「思う」と答えた理由 (一部抜粋)

- ・子どもも社会の一員として、権利がちゃんとあってほしいから。松本だけでなく、全国でもあってほしい。
- ・学校などでいじめられている人が、少しでも安心して暮らせると思うから。
- ・子どもの権利が増え、たくさんの事に打ち込めるようになったこと。

(2) 「思わない」と答えた理由 (一部抜粋)

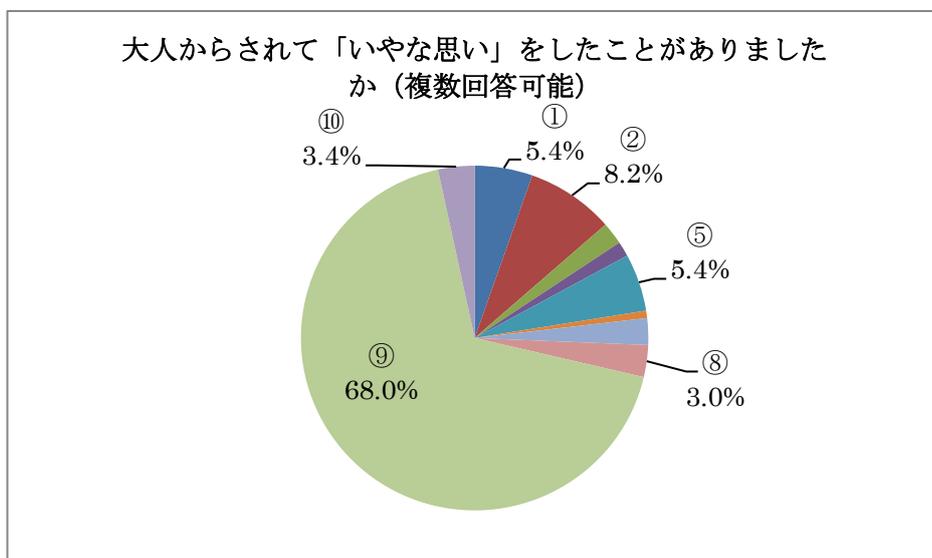
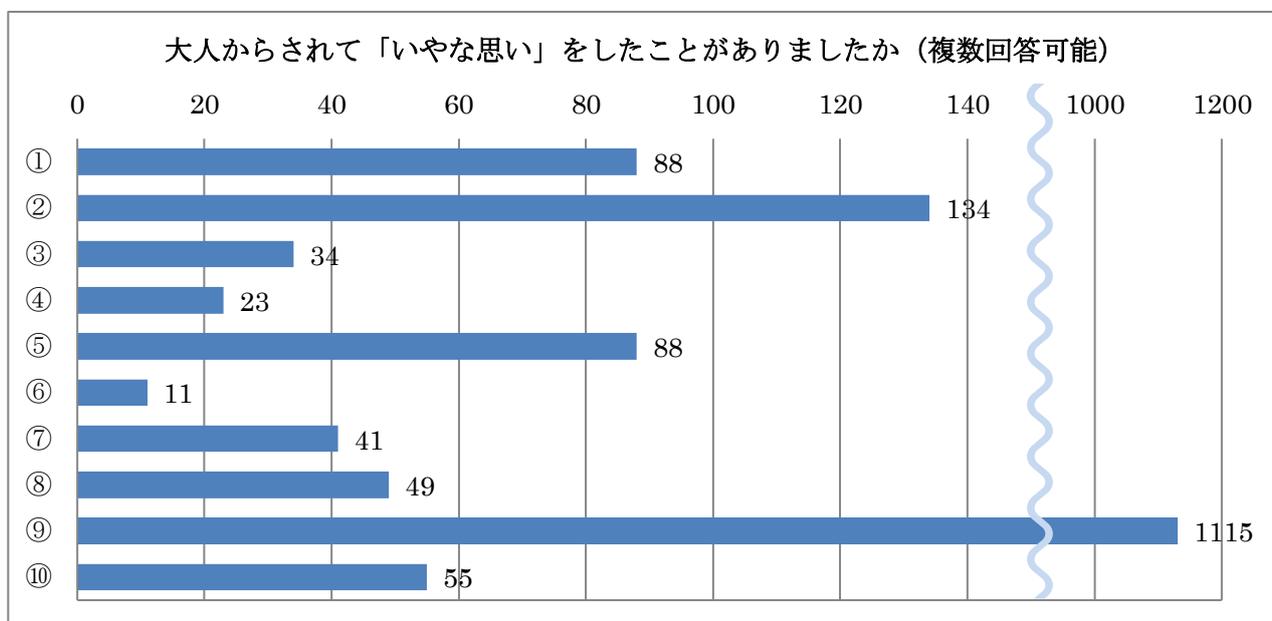
- ・自分たちに影響がなさそうだから。
- ・内容まで知っている人があまりにも少なすぎる。もっと多くの人が内容まで知ることができるようにしてほしい。
- ・条例の内容を知らないなので、良いとは思わない。

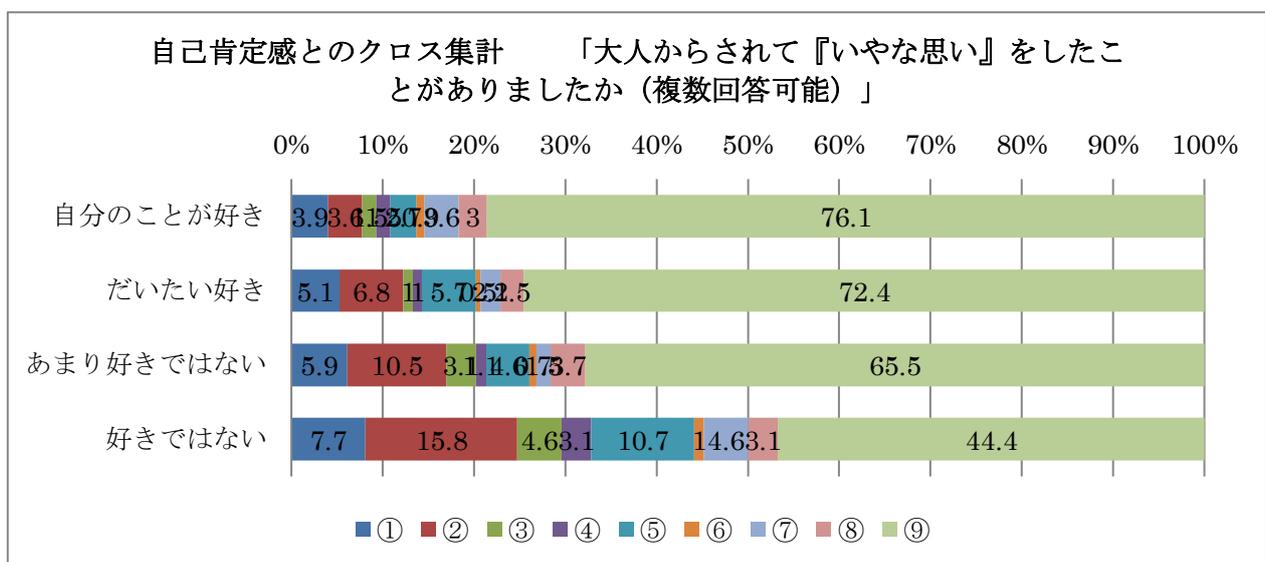
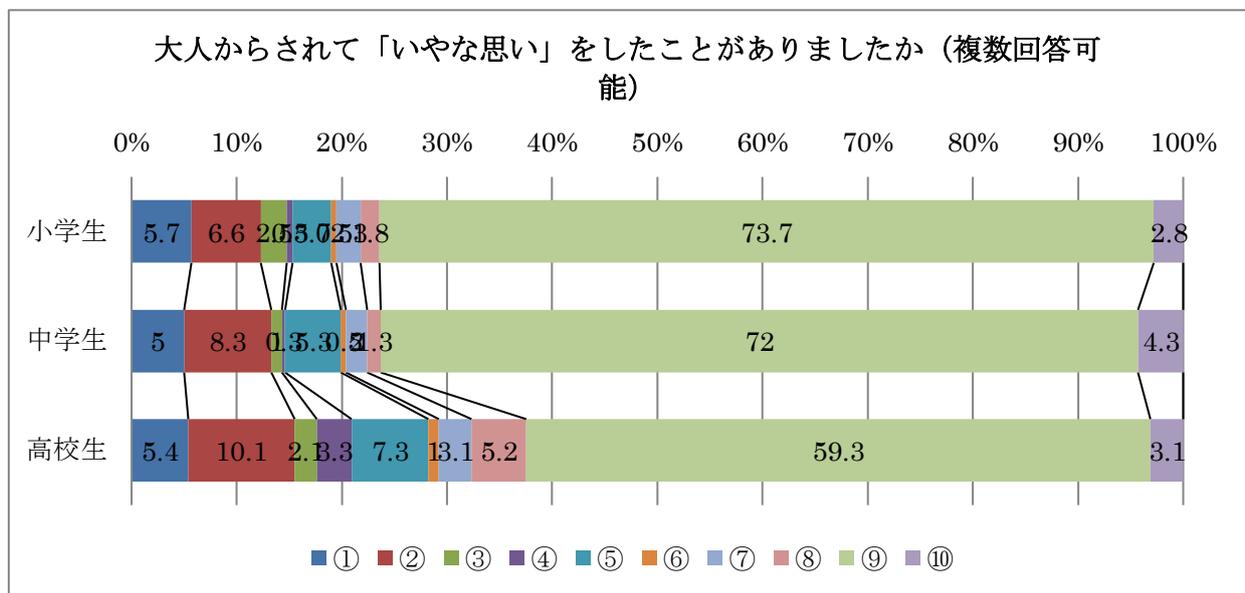
・条例が「できて良かった」と回答する子どもは33%なのに対し、半数以上の子どもは、条例ができて良かったかどうか「わからない」と回答しており、前回調査との大きな差異は見受けられなかった。

・年齢が上がるにつれて、条例が「できて良かった」と回答する子どもの割合は減少している。

問12 あなたは、これまで大人から次のようなことをされて「いやな思い」をしたことがありますか  
(複数回答可能)

- ① 親（保護者）から、たたかれる、なぐられる
- ② 親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる
- ③ 親（保護者）から、自分をほったらかしにされる
- ④ 学校や施設（児童館・児童センターなど）の先生や職員から、たたかれる、なぐられる
- ⑤ 学校や施設（児童館・児童センターなど）の先生や職員から、心を傷つけられる言葉を言われる
- ⑥ 塾や習いごとの先生、スポーツクラブの監督などから、たたかれる、なぐられる
- ⑦ 塾や習いごとの先生、スポーツクラブの監督などから、心を傷つけられる言葉を言われる
- ⑧ 知らない大人に、声をかけられる、追いかけるられる
- ⑨ ない
- ⑩ その他（具体的に記述）



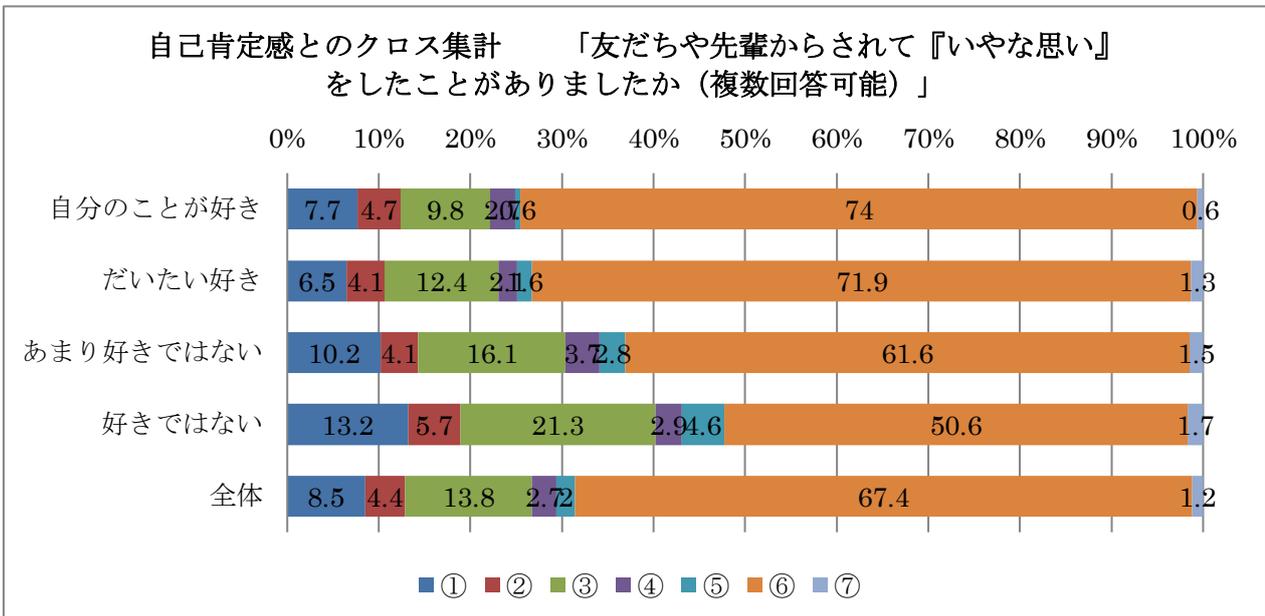
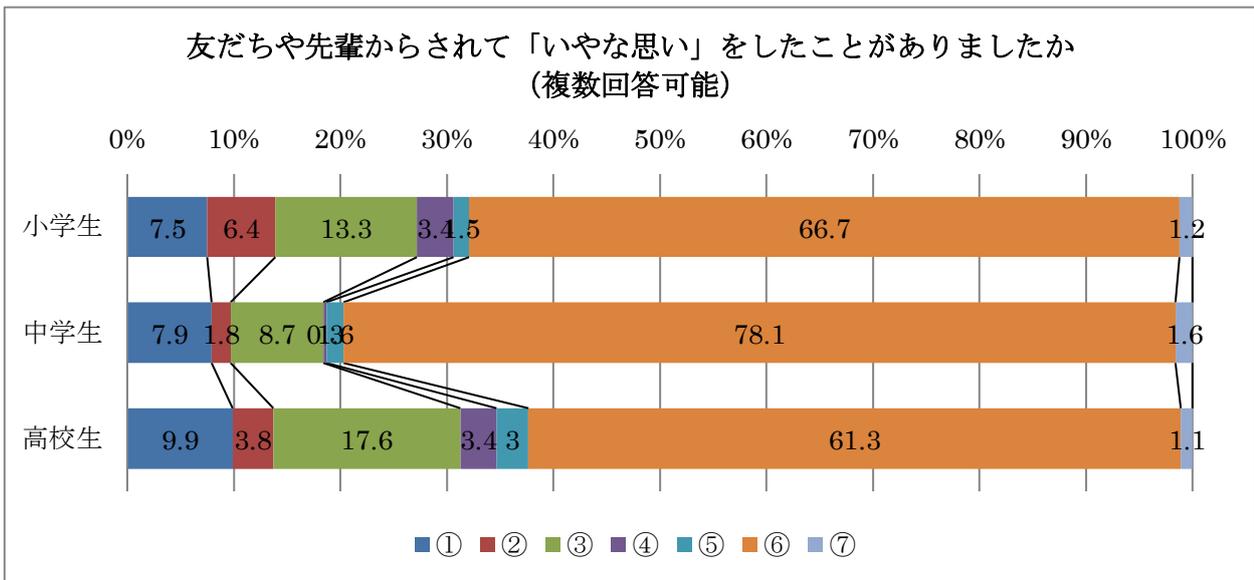
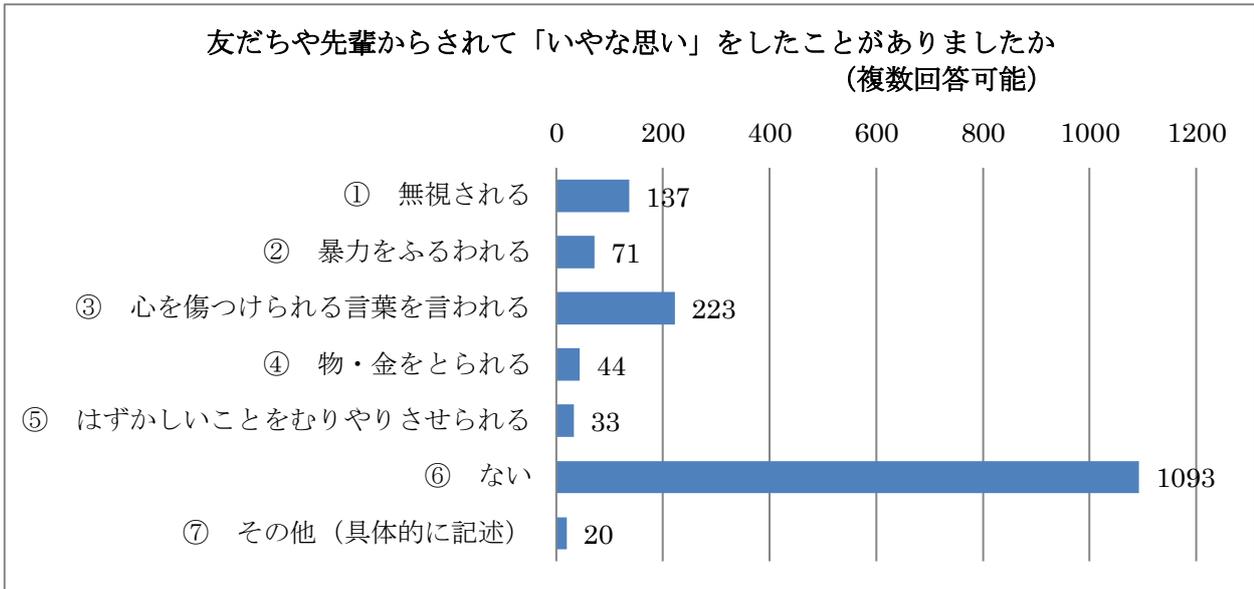


「⑩その他」を選んだ子どもの記述内容（一部抜粋）

- ・若者や高齢者（一部）が公共交通機関を使う際のマナーが悪い。
- ・電車で下校している途中、男性に話しかけられ、少し怖かった。
- ・自分の意見や考えが無視された時
- ・自分の将来の夢を簡単な事だと教師に馬鹿にされた。
- ・バイト先の大人の方の陰での悪口
- ・親にけられる。

- ・大人からされて「いやな思い」をしたことについて、「⑨ ない」「② 親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」「⑤学校や施設（児童館・児童センターなど）の先生や職員から、心を傷つけられる言葉を言われる」の順に回答数が多くなっている。
- ・大人から「いやな思い」をしたことがない子どもは、全体で68.1%で、最も多くなっている。
- ・年齢が上がるほど、大人からされて「いやな思い」をしたことが「⑨ ない」と答える割合が減り、なんらかのかたちで「いやな思い」をしたことがあると答える割合が高くなる。
- ・自己肯定感の低い子どもほど、大人からされて「いやな思い」をしたことがあると答える割合が高くなり、なんらかのかたちで「いやな思い」をしたことがあると子どもの割合が高くなっている。

問13 あなたは、これまで友だちや先輩から次のようなことをされて「いやな思い」をしたことがありますか。(複数回答可能)



「⑦ その他」を選んだ子どもの記述内容（一部抜粋）

- ・ひとりが多くて寂しい。
- ・友達に物を隠されて、そのままなくされた。
- ・友だちで変なウワサを流されたり、悪口を言われたり
- ・先輩気取り、偉そうで命令口調

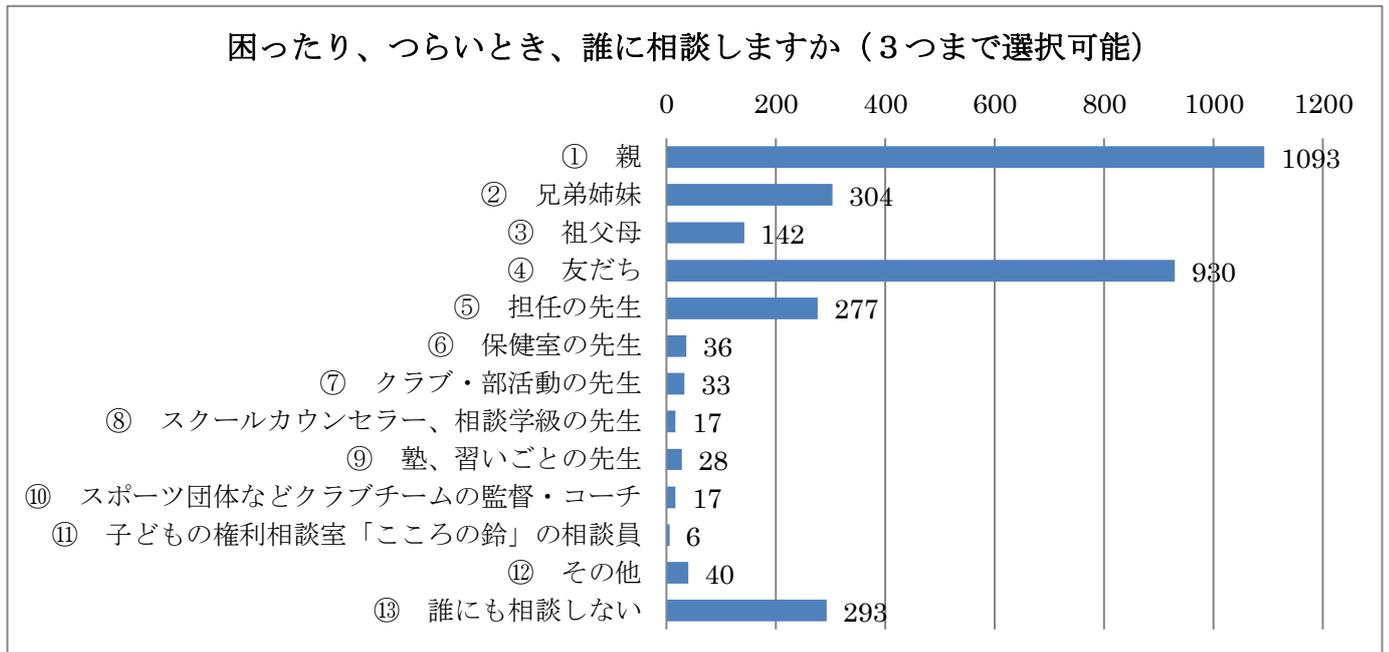
・友だちや先輩からされて「いやな思い」をしたことについて、「⑥ない」「③ 友だちや先輩などから、心を傷つけられる言葉を言われる」「① 友だちや先輩などから、無視される」の順に回答数が多くなっている。

・前問の「大人」からされたいやなことと比べ、「友だちや先輩」といった子どもたちにとって年齢の近い存在から「いやな思い」をしたと回答する子どもは多い。

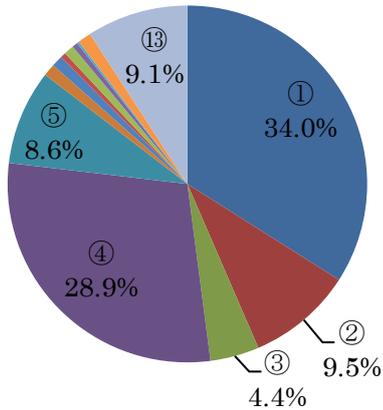
・友だちや先輩からされて「いやな思い」をしたことについては、自己肯定感の高低に関わらず、「③ 友だちや先輩などから、心を傷つけられる言葉を言われる」と回答する子どもの占める割合が最も高くなっている。

・自己肯定感の低い子どもほど、友だちや先輩からされて「いやな思い」をしたことがあると答える割合が高くなり、なんらかのかたちで「いやな思い」をしたことがあると子どもの割合が高くなっている。

問14 困ったり、つらいとき、誰に相談しますか。（3つまで選択可能）

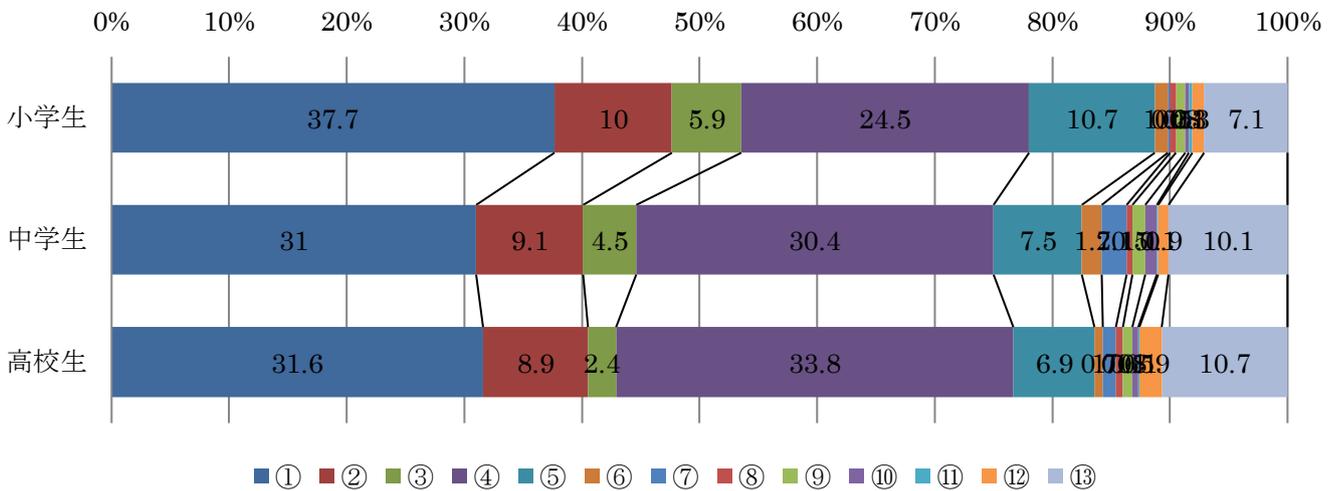


困ったり、つらいとき、誰に相談しますか  
(3つまで選択可能)

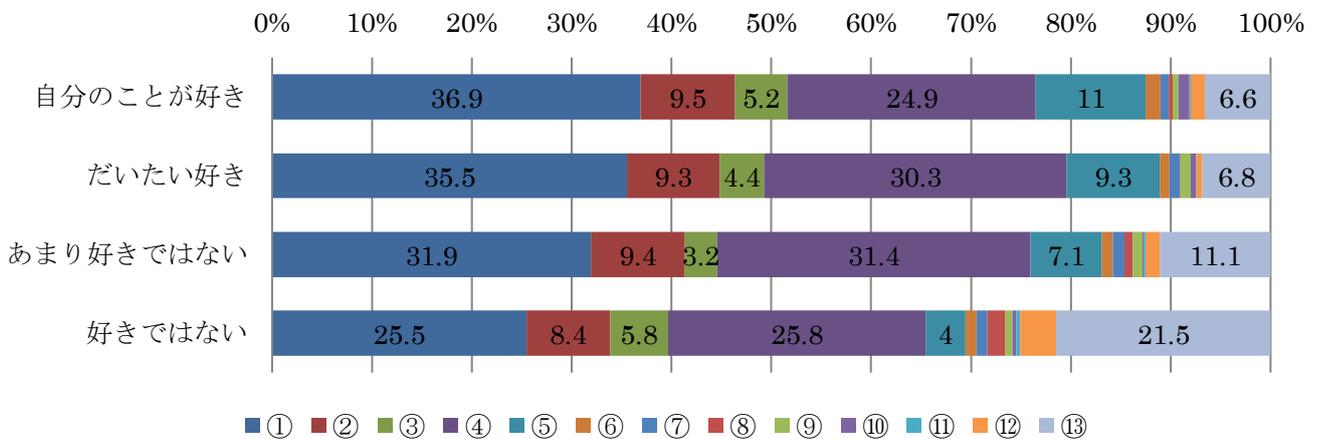


- ・困ったり、つらいときの相談相手として、「① 親」や「④ 友だち」と回答した子どもが多い。
- ・「⑬ 誰にも相談しない」と回答した子どもは、4番目に多く、全体に占める割合は、9%になる。
- ・自己肯定感の低い子どもほど、「⑬ 誰にも相談しない」と回答する割合が高くなり、悩みを一人で抱え込んでいることが窺える。

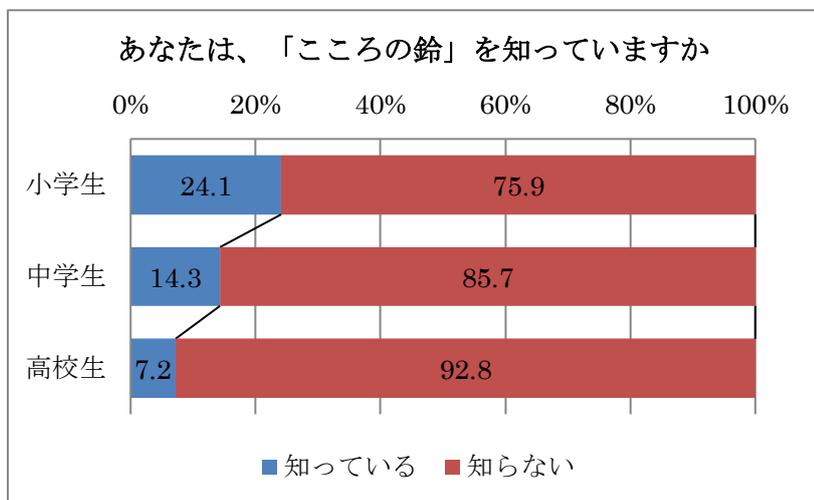
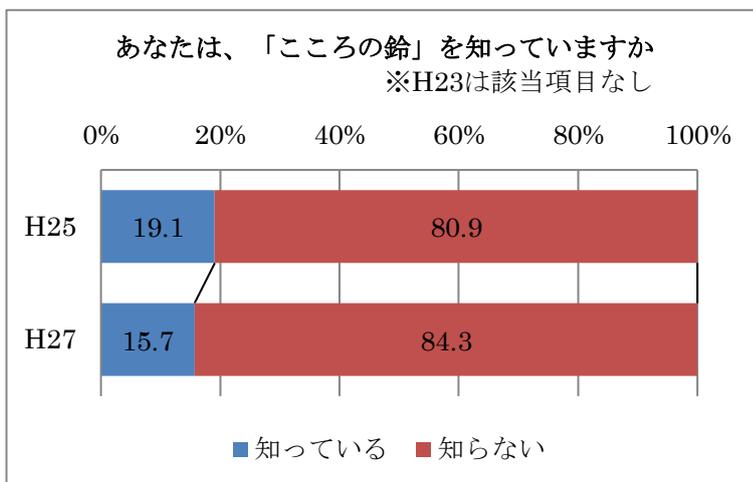
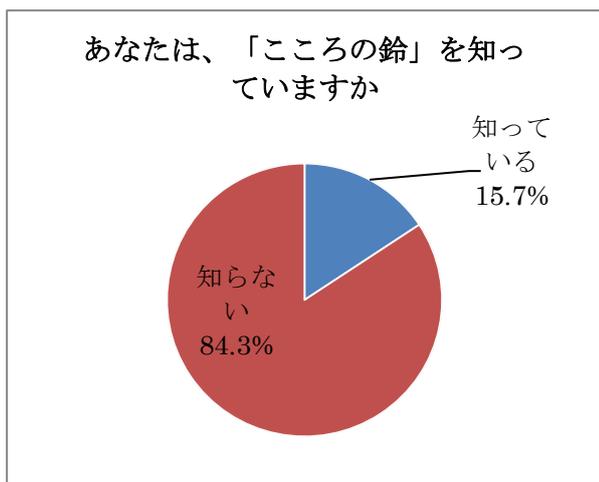
困ったり、つらいとき、誰に相談しますか (3つまで選択可能)



自己肯定感とのクロス集計 「困ったり、つらいとき、誰に相談しますか。  
(3つまで選択可能)」



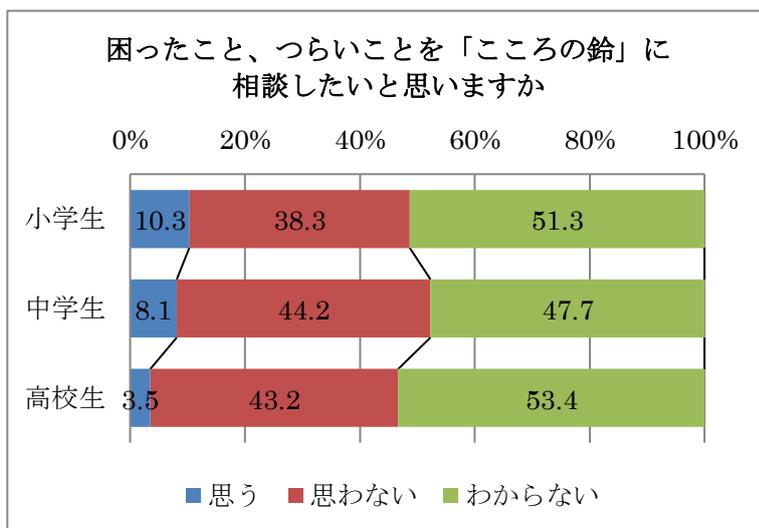
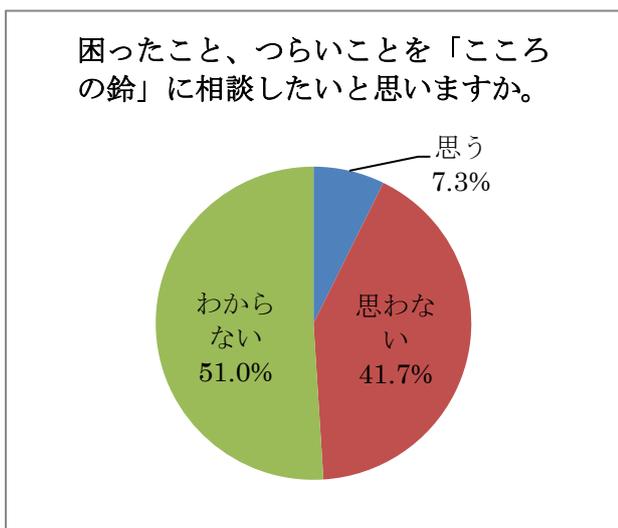
問15 あなたは、「こころの鈴」を知っていますか。



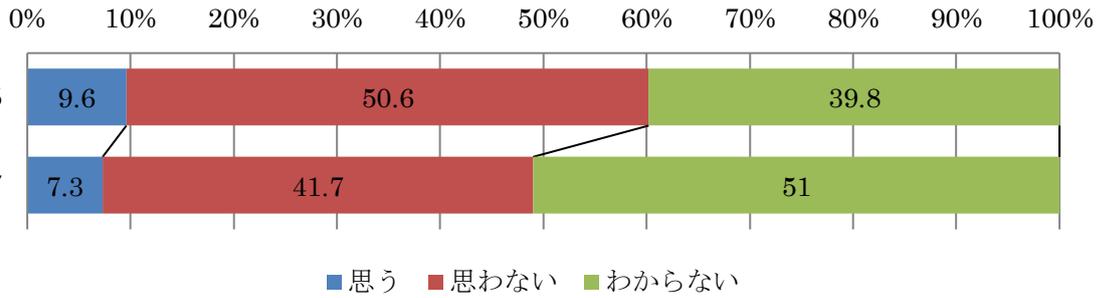
・「こころの鈴」について、知っている子どもは、15.7%で、前回調査の19.1%を下回ったが、大きな差異は見受けられなかった。

・年齢が上がるにつれて、「こころの鈴」を知っている子どもの割合は、減少する傾向にある。

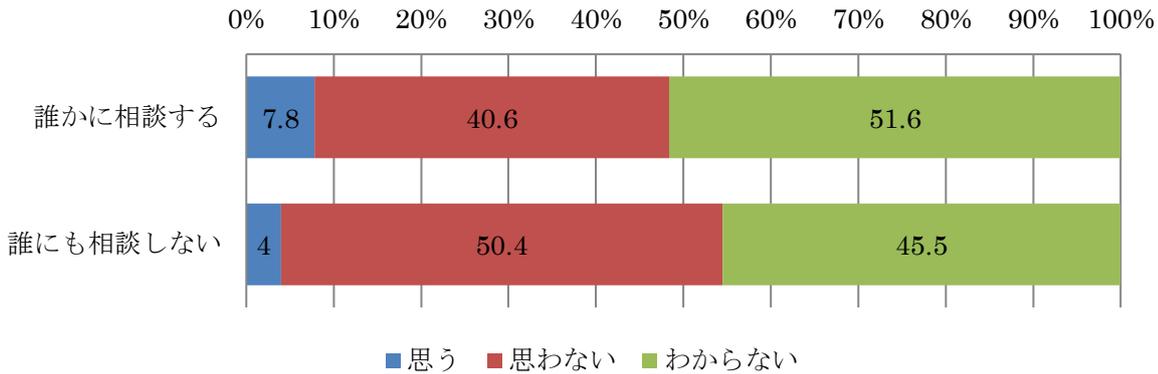
問16 あなたは、困ったこと、つらいことを「こころの鈴」に相談したいと思いますか。



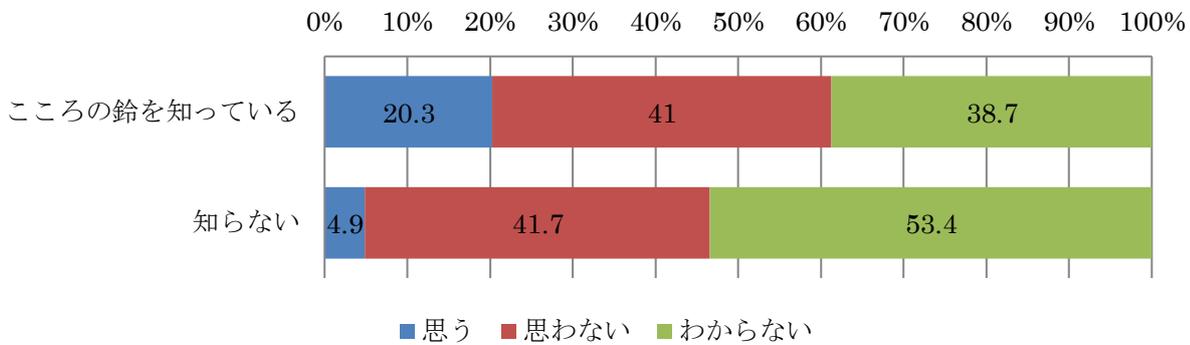
困ったこと、つらいことを「こころの鈴」に相談したいと思いませんか。  
※H23は該当項目なし



悩みを誰かに相談するかどうか(問14)とのクロス集計 「困ったこと、つらいことを『こころの鈴』に相談したいと思いませんか」



こころの鈴を知っているか否か(問15)とのクロス集計 「困ったこと、つらいことを『こころの鈴』に相談したいと思いませんか」

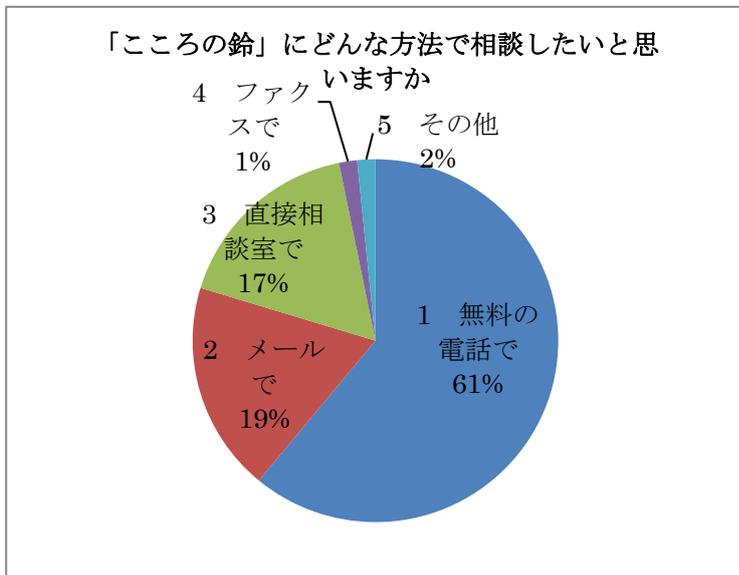


- ・「こころの鈴」に相談したいと思う子どもは、7%で、前回調査の9.6%を下回ったが、大きな差異は見受けられなかった。
- ・相談したいと「思わない」子どもの割合が減り、「わからない」と答える子どもの割合が増加した。
- ・年齢が上がるにつれて、「こころの鈴」に相談したいと思う子どもの割合は減少する傾向にある。
- ・自己肯定感の低い子どもほど悩みを一人で抱え込む傾向にあること(問14)、悩みを相談する子どもは、親や友だちなど身近な存在に相談すること(問14)、こころの鈴の認知度が低いこと(問15)、こころの鈴に相談したいと思う子どもが少ないこと(問16)から、子どもにとって相談しやすい身近な存在として、こころの鈴の一層の周知に努めることが、自己肯定感を高めるにあたって有用である。
- ・悩みを誰にも相談しないと答えた子どもであっても、そのうち4%は、こころの鈴に相談したいと思っている。
- ・こころの鈴を知らない子どものうち、4.9%は、こころの鈴に相談したいと思っている。

問17 「こころの鈴」にどんな方法で相談したいと思いますか。

「5 その他」を選んだ子どもの記述内容

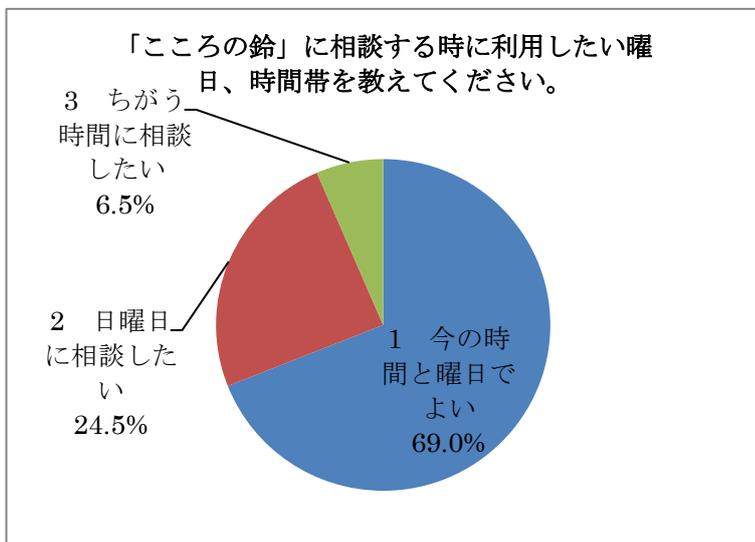
・手紙



・「こころの鈴」への相談方法は、「無料の電話」を選択した子どもが61%

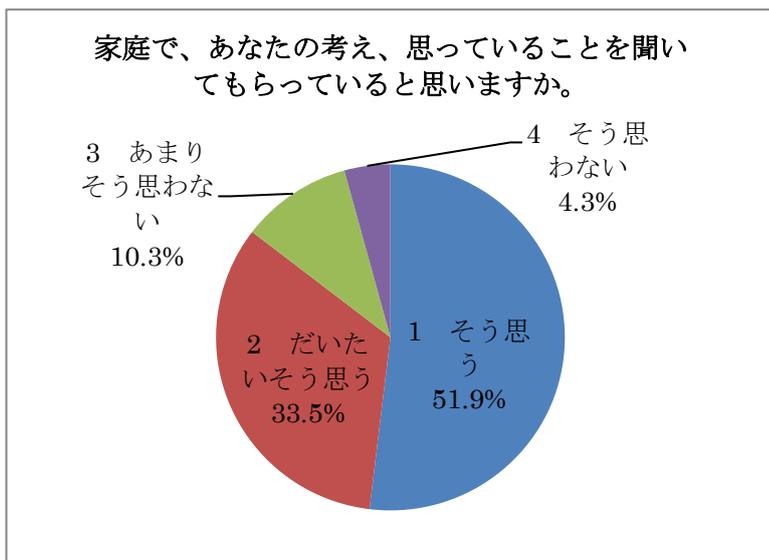
・「その他」の相談方法を選択した子どもは、具体的には「手紙」で相談したいと回答した。

問18 「こころの鈴」に相談する時に利用したい曜日、時間帯を教えてください。

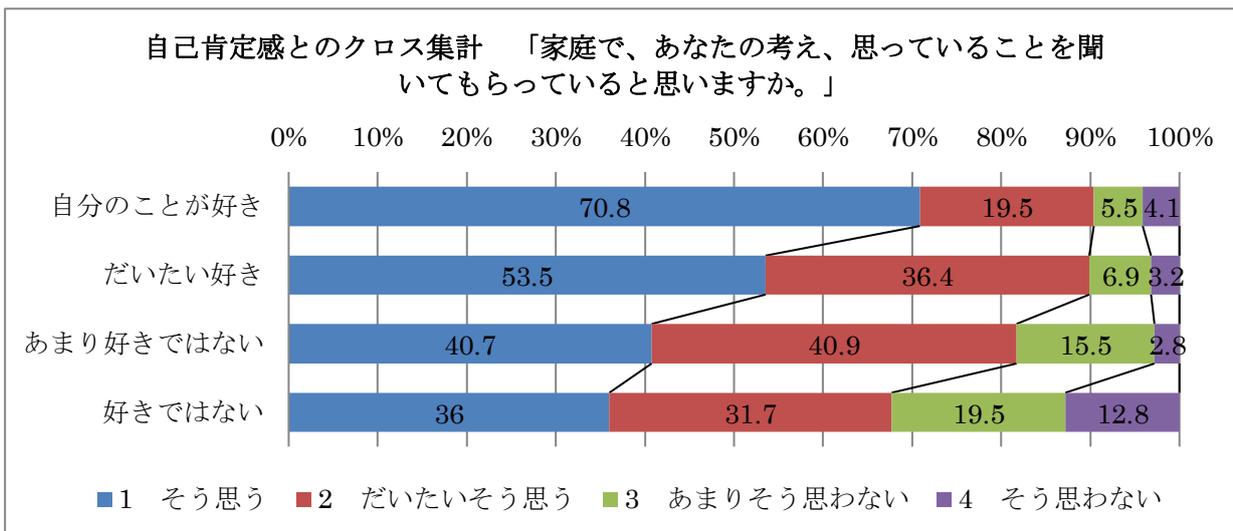
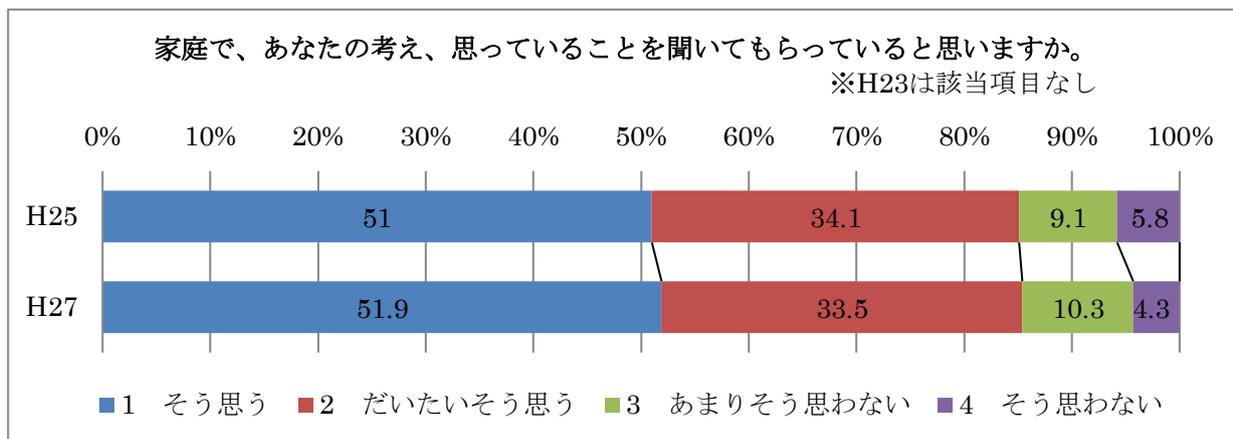


・「こころの鈴」の利用日時について、「今のままでよい」と回答した子どもは、69.0%を占めた。

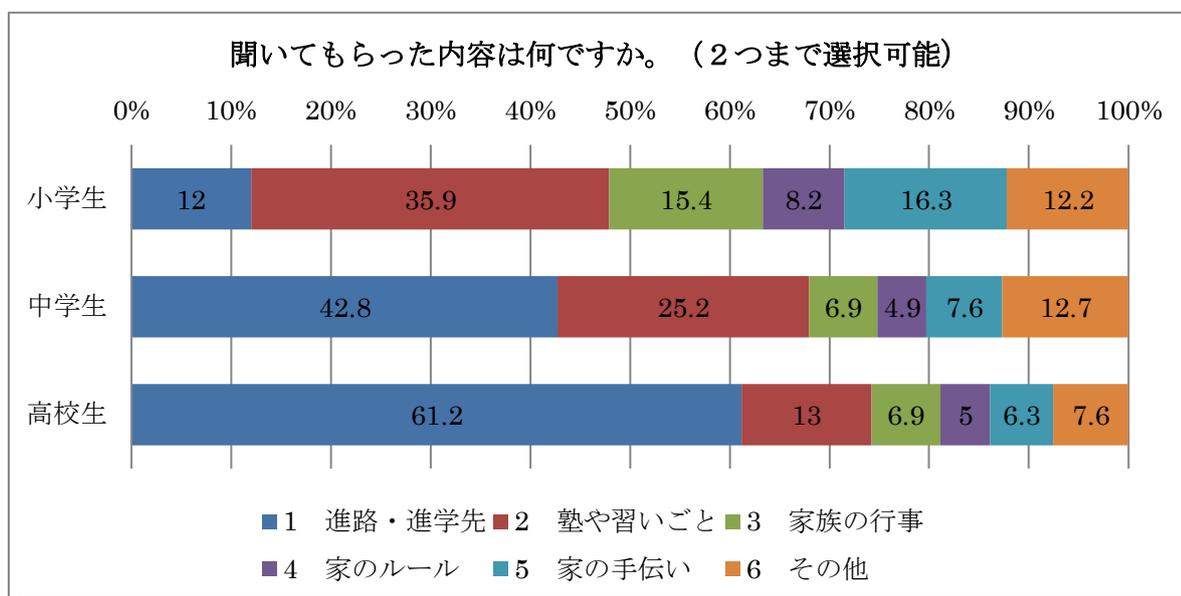
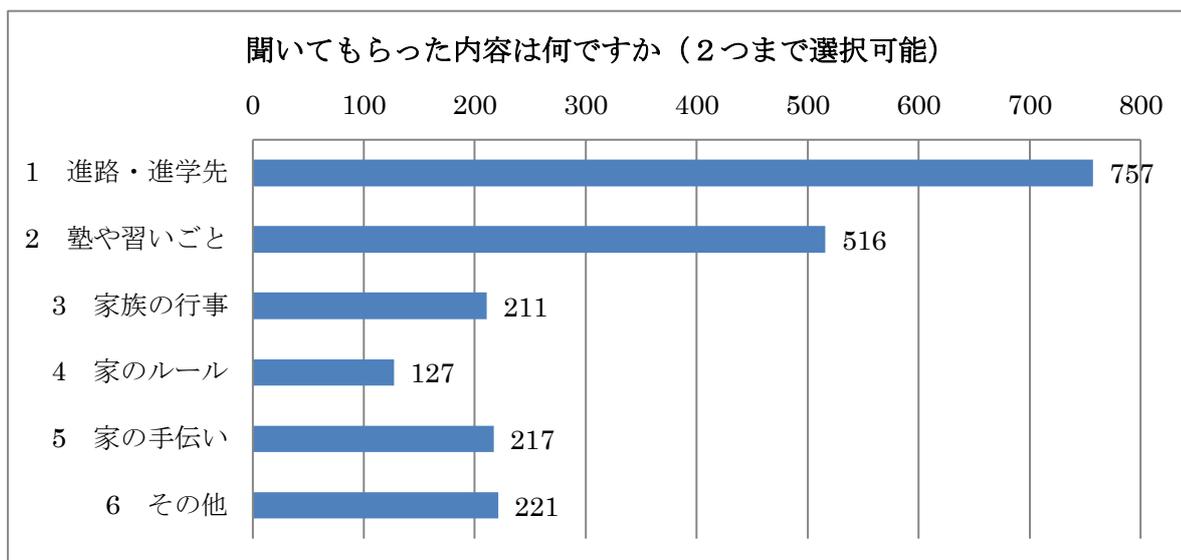
問19 家庭で、あなたの考え、思っていることを聞いてもらっていると思いますか。



- ・家庭で自分の考えや思っていることを聞いてもらっているかどうかについて、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた子どもは、85.4%となり、前回調査の85.1%と大きな差異は見受けられなかった。
- ・自己肯定感の高い子どもほど、「家庭で自分の考えや思っていることを聞いてもらっていると思う」と答える傾向にあり、自己肯定感との関係が窺える。

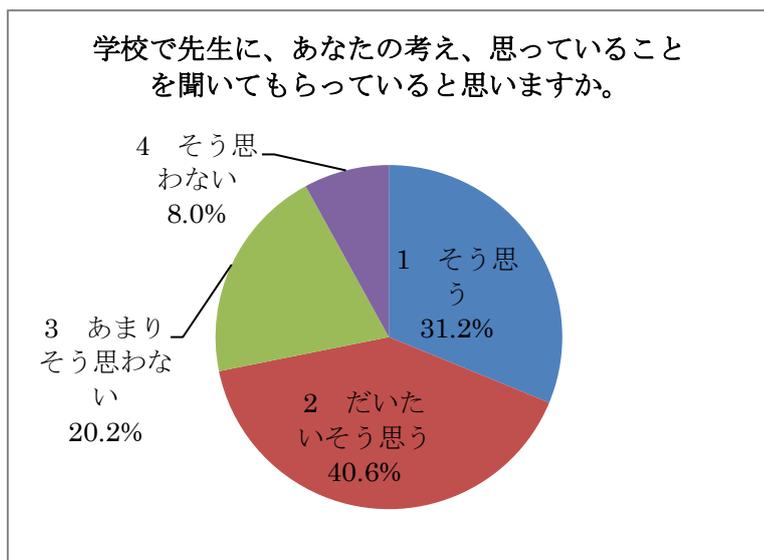


問20 家庭で、聞いてもらった内容は何ですか。(2つまで選択可能)

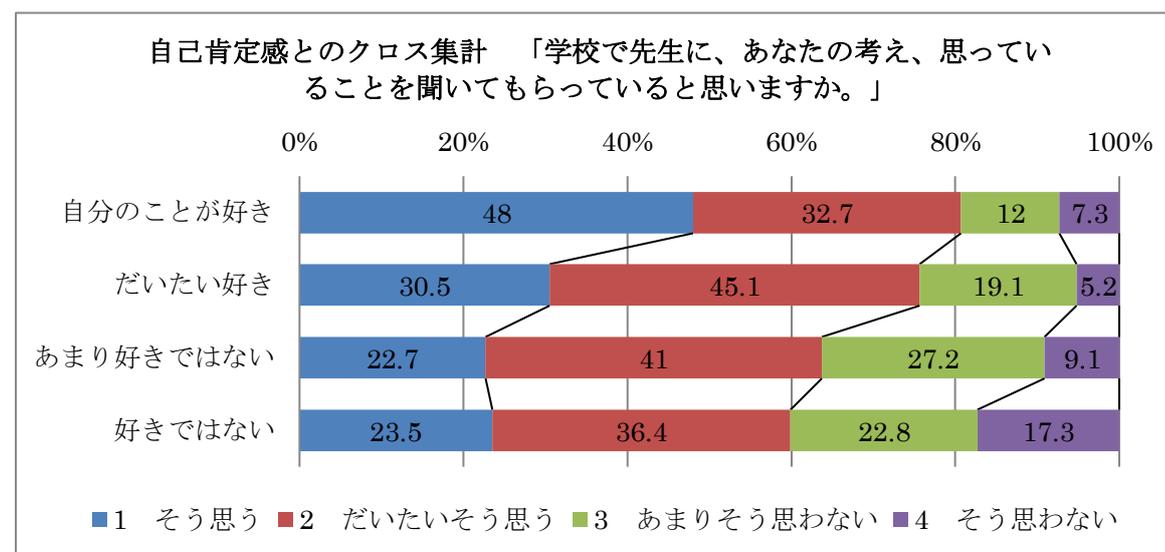
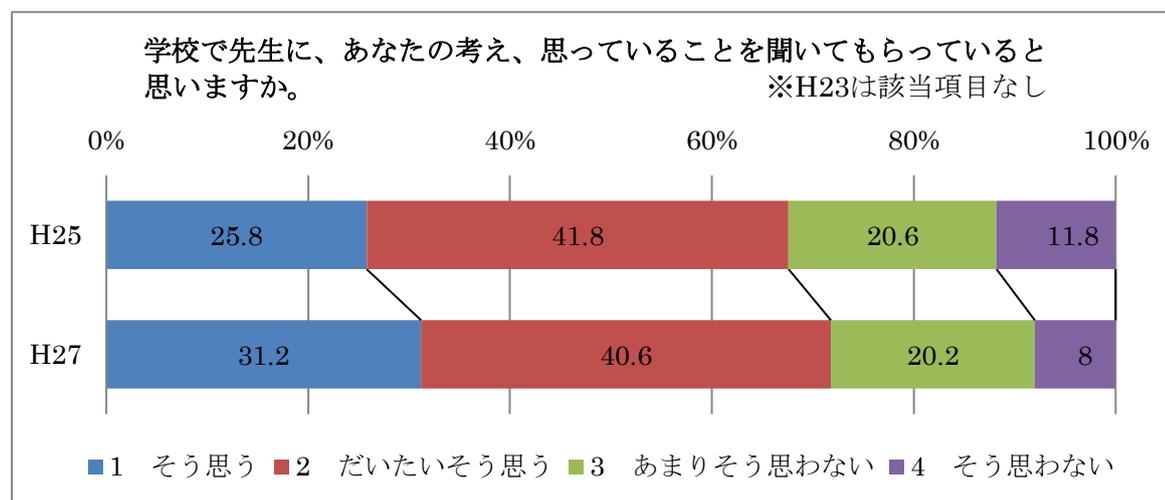


- ・家庭で聞いてもらったことは、「1 進路・進学先」のことが、「2 塾や習いごと」のことが多い。
- ・「その他」を選んだ子どもの多くは、「学校での出来事」等、学校生活に関することと記述回答している。
- ・小学生が家庭で聞いてもらったことは、「2 塾や習いごと」「1 進路・進学先」の順に多いが、中学生になると「1 進路・進学先」「2 塾や習いごと」の順となる。
- ・高校生になると、「1 進路・進学先」の割合が半数以上を占める。

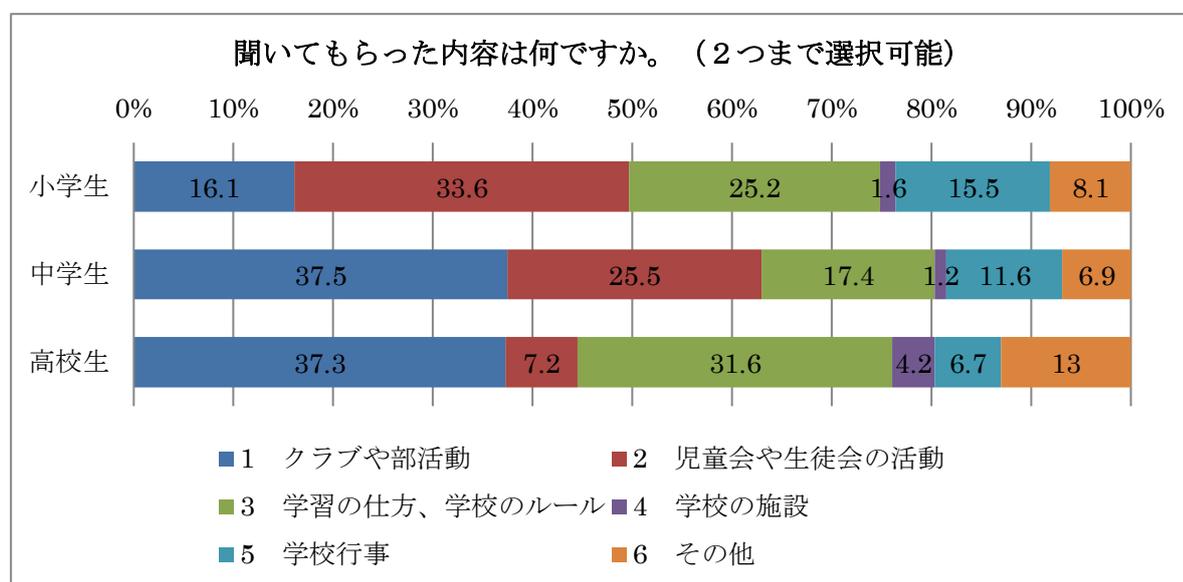
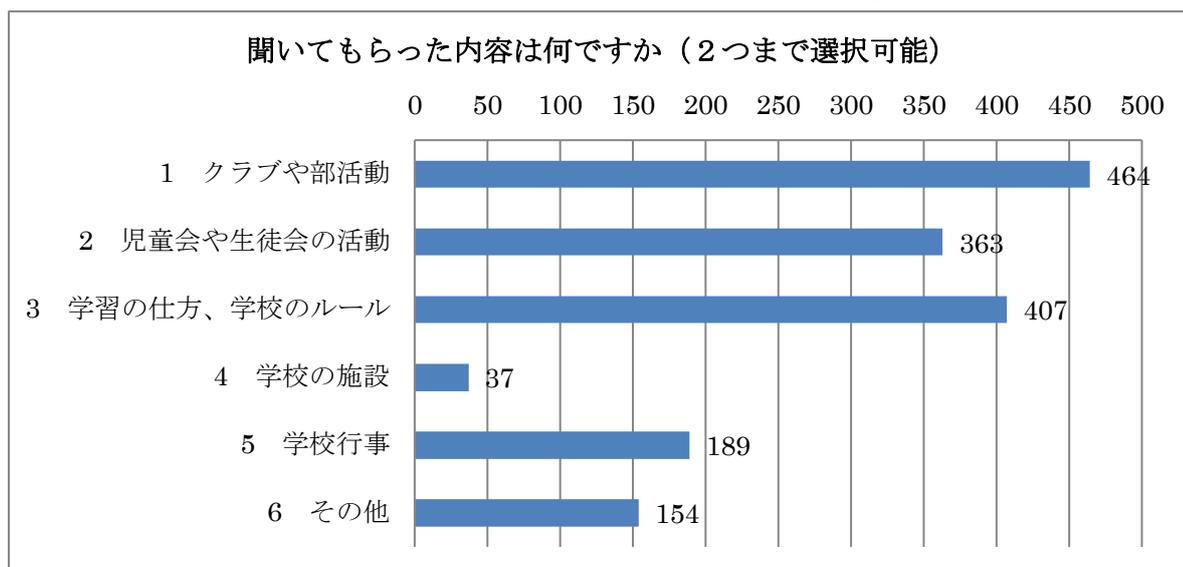
問2 1 学校で先生に、あなたの考え、思っていることを聞いてもらっていると思いますか。



- ・学校で先生に、自分の考えや思っていることを聞いてもらっているかどうかについて、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた子どもは、71.8%で、前回調査の67.6%を上回った。
- ・自己肯定感の高い子どもほど、「学校で先生に、自分の考えや思っていることを聞いてもらっていると思う」「だいたいそう思う」と答える傾向にあり、自己肯定感との関係が窺える。



問2 2 学校で先生に、聞いてもらった内容は何ですか。(2つまで選択可能)

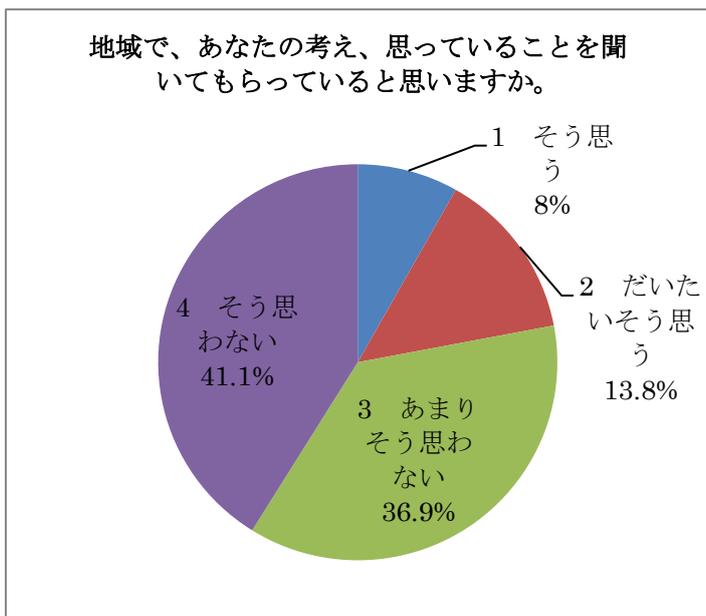


「6 その他」を選んだ子どもの記述内容 (一部抜粋)

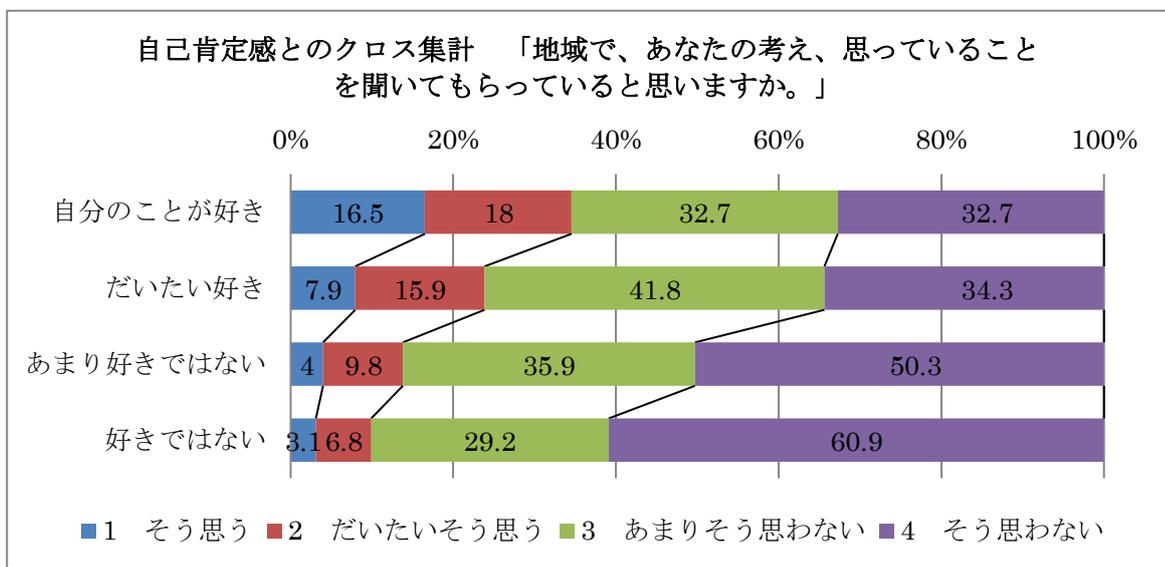
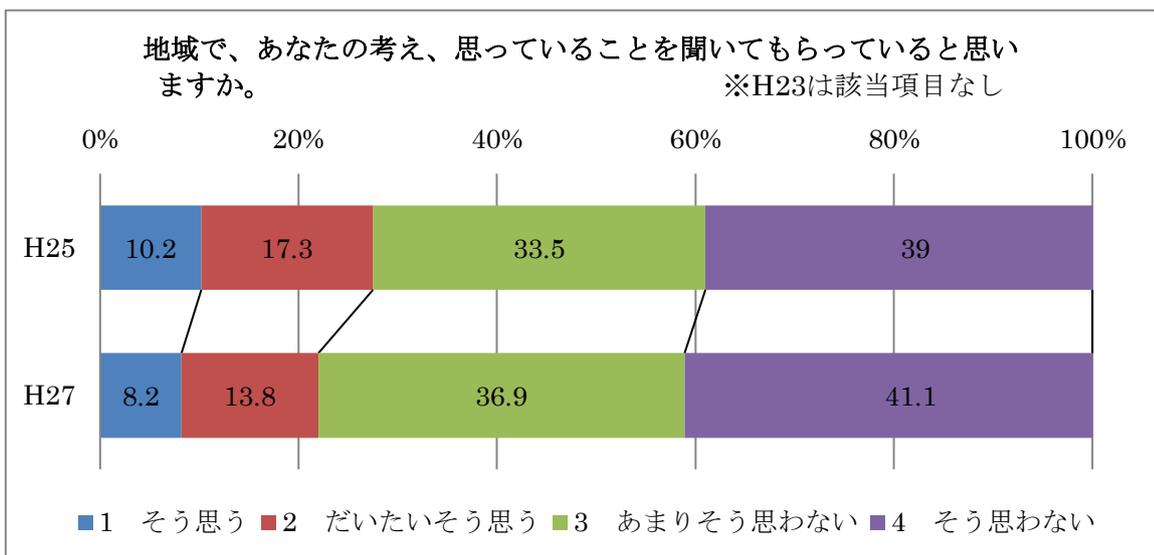
- ・進路や成績について
- ・授業や勉強のこと
- ・友達のこと

- ・学校で先生に聞いてもらったことは、「1 クラブや部活動」のこと、「2 児童会や生徒会の活動」のこと、「3 学習の仕方、学校のルール」のことが多い。
- ・「その他」を選んだ子どもの多くは、「進路や成績」「授業」「勉強」等、将来や勉学に関することと回答している。
- ・小学生が学校で聞いてもらったことは、「2 児童会や生徒会の活動」が最も多い。
- ・中学生になると「1 クラブや部活動」が最も多くなるが、部活動が本格化することが理由と推察される。
- ・高校生になると、「3 学習の仕方、学校のルール」と回答する子どもが多くなる。

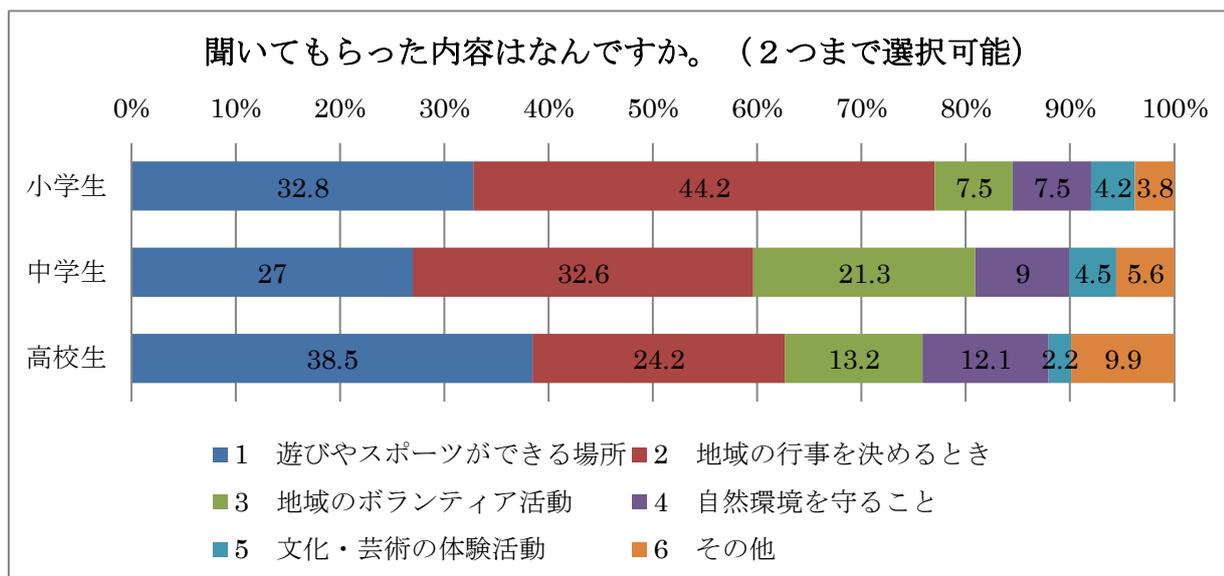
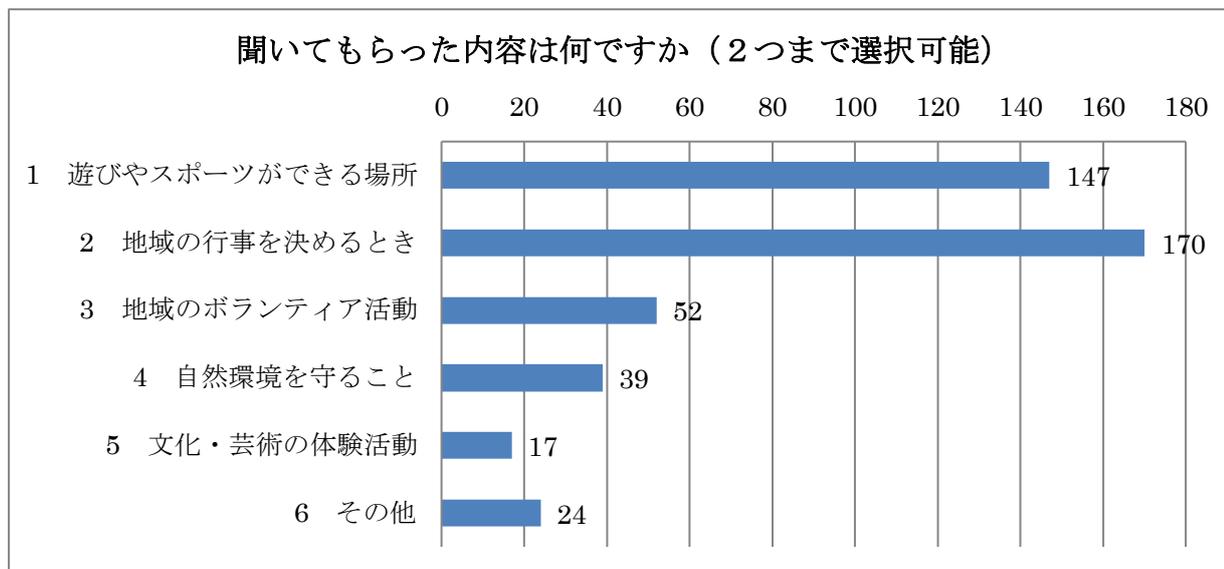
問23 地域で、あなたの考え、思っていることを聞いてもらっていると思いますか。



- ・地域で、自分の考えや思っていることを聞いてもらっているかどうかについて、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた子どもは、22%で、前回調査の27.5%を下回ったが、大きな差異は見受けられなかった。
- ・前回調査と同じく、「そう思う」「だいたいそう思う」と答える子どもは少数となっている。
- ・自己肯定感の高い子どもほど、地域で、自分の考えや思っていることを聞いてもらっているかどうかについて「そう思う」「だいたいそう思う」と答える傾向にある。
- ・ただし、自己肯定感の最も高い「自分のことが好き」な子どもであっても、「そう思う」「だいたいそう思う」割合は34.5%だった。



問24 地域で、聞いてもらった内容はなんですか。(2つまで選択可能)



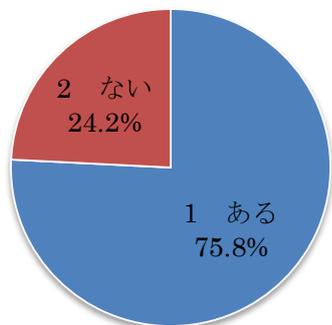
「6 その他」を選んだ子どもの記述内容 (一部抜粋)

- ・学校のこと
- ・相談事
- ・地域活動

- ・地域で聞いてもらったことは、「1 遊びやスポーツができる場所」のこと、「2 地域の行事を決めるとき」のことが多い。
- ・小学生は、「3 地域のボランティア活動」の占める割合が7.5%と低いですが、中学生になると二桁に増加する。
- ・地域で聞いてもらった内容は、年齢ごとに異なることが窺える。

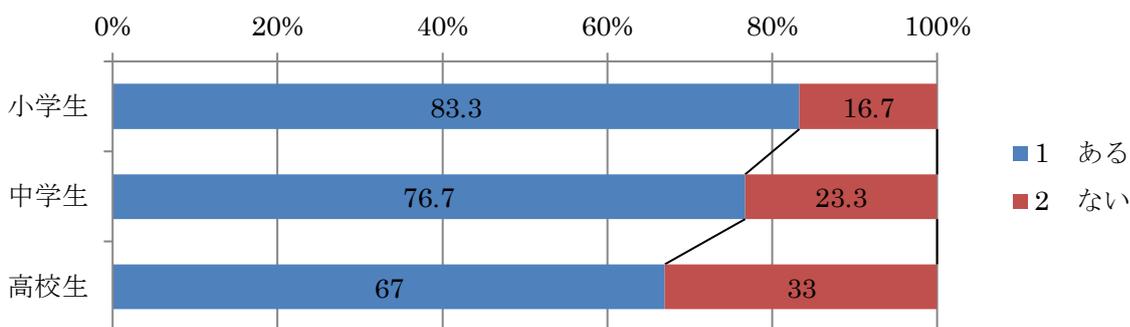
問25 地域の中で、遊んだりスポーツをしたり、安心してやりたいことができる場所がありますか。

地域の中で、遊んだりスポーツをしたり、安心してやりたいことができる場所がありますか。

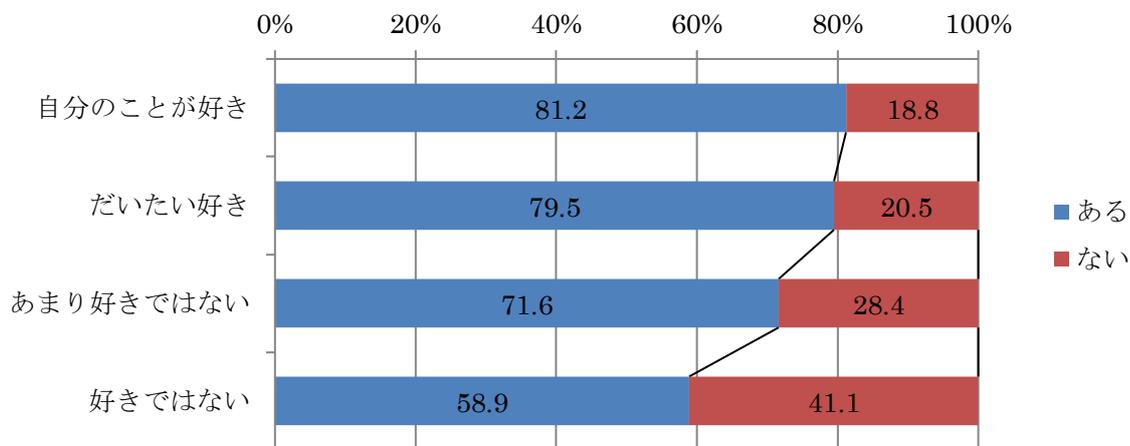


- ・地域の中で、安心してやりたいことができる場所が「1 ある」と答えた人は、75.8%。
- ・「1 ある」と答える子どもの割合は、高校生でも半数以上を占めているが、年齢が上がるにつれて割合は減少している。
- ・自己肯定感の高い子どもほど、安心してやりたいことができる場所が「1 ある」と答える傾向にあり、自己肯定感との関係が窺える。

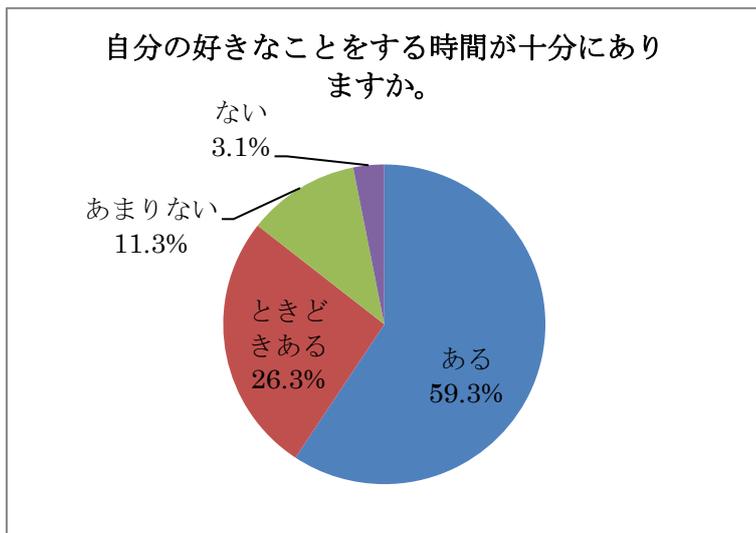
地域の中で、遊んだりスポーツをしたり、安心してやりたいことができる場所がありますか。



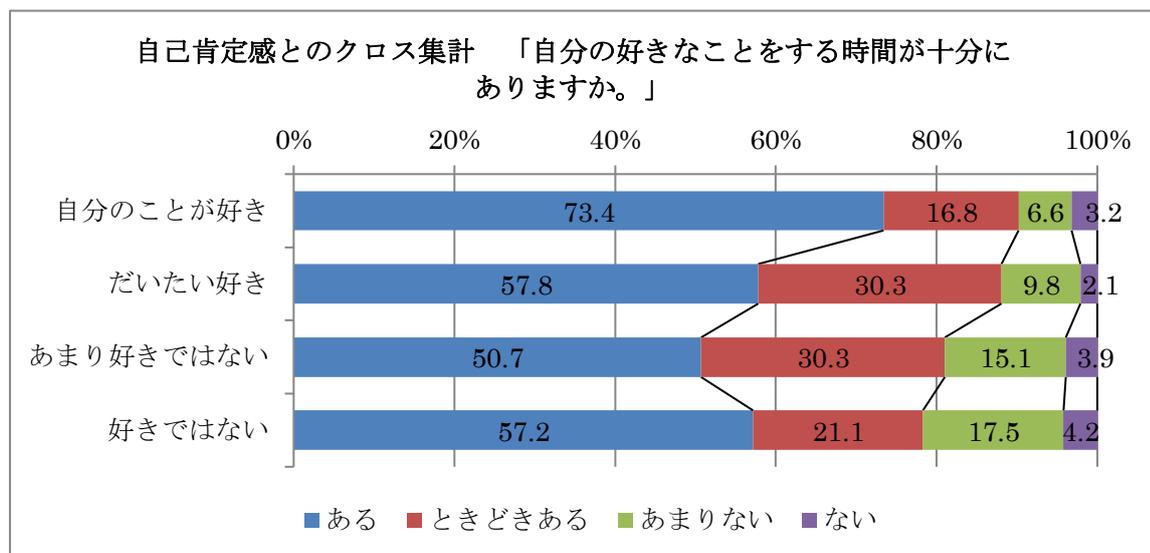
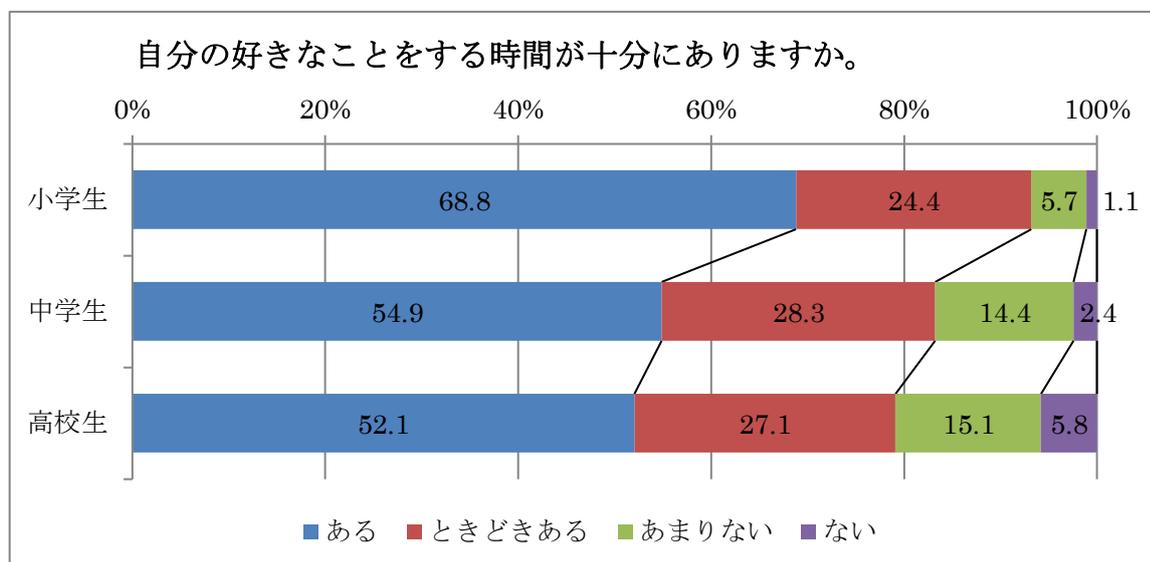
自己肯定感とのクロス集計 「地域の中で、遊んだりスポーツをしたり、安心してやりたいことができる場所がありますか。」



問26 あなたは、遊んだり休んだり、自分の好きなことをする時間が十分にありますか。

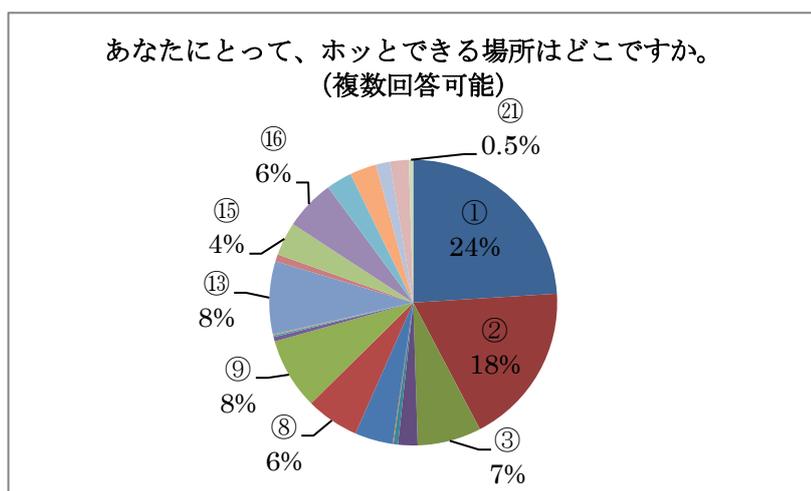
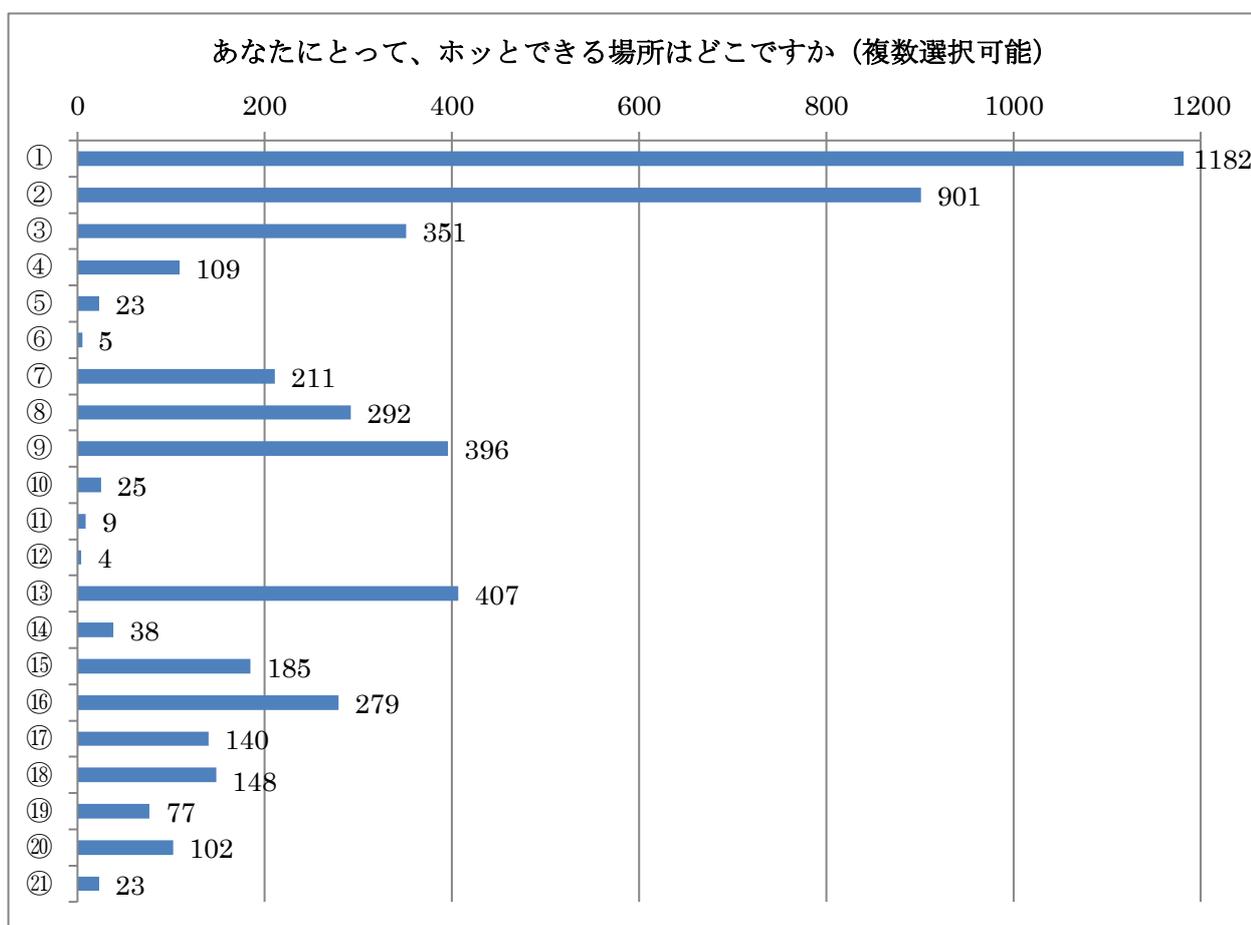


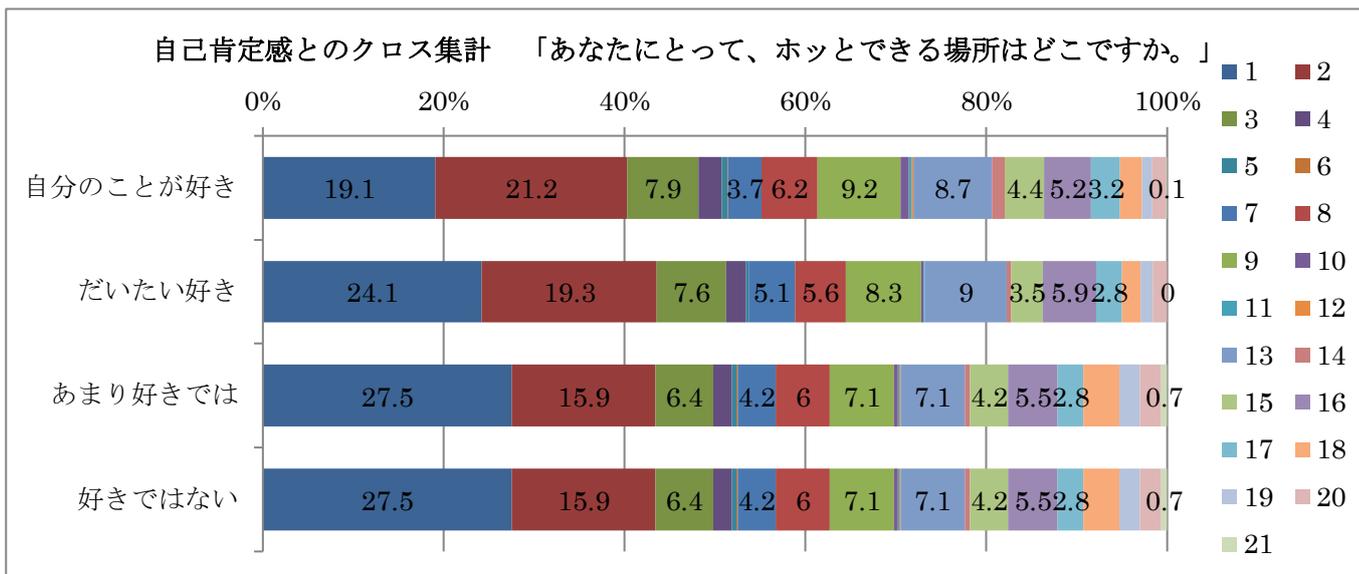
- ・自分の好きなことをする時間が十分に「ある」「ときどきある」と答えた子どもは、全体で85.6%。
- ・年齢があがるにつれて、「ある」「ときどきある」と答える子どもが占める割合は、減少する。
- ・自分のことが好きな子どもの90.2%が、「ある」「ときどきある」と回答するのに対して、自分のことが好きではない子どものうち、「ある」「ときどきある」と答える子どもは、78.3%にとどまることから、自己肯定感との関係が窺える。



問27 あなたにとって、ホッとできる場所はどこですか。(複数回答可能)

- ① 自分の部屋      ② 家族と一緒に過ごす部屋      ③ 学校      ④ 保健室
- ⑤ 中間教室      ⑥ フリースクール      ⑦ クラブ活動・部活動の場所
- ⑧ 友達の家      ⑨ 祖父母や親戚の家      ⑩ 児童館・児童センター
- ⑪ 学童クラブ      ⑫ 青少年の居場所      ⑬ 図書館      ⑭ 公民館
- ⑮ 公園      ⑯ 山や川などの自然のある場所      ⑰ 塾や習いごと、スポーツの教室
- ⑱ ゲームセンター、カラオケボックス、まんが喫茶
- ⑲ コンビニエンス・ストア、ファストフード、喫茶店などのお店
- ⑳ その他      ㉑ ホッとできる場所はない



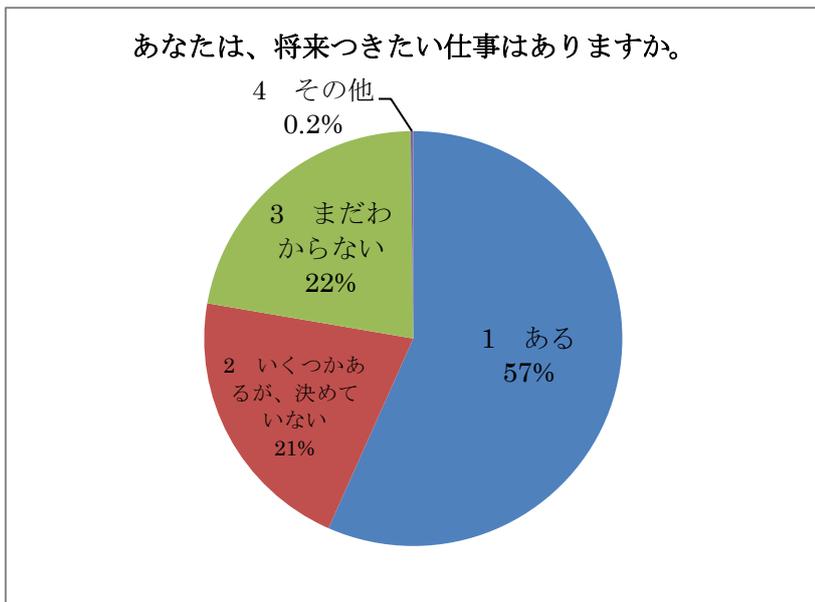


「⑳ その他」を選んだ子どもの記述内容（一部抜粋）

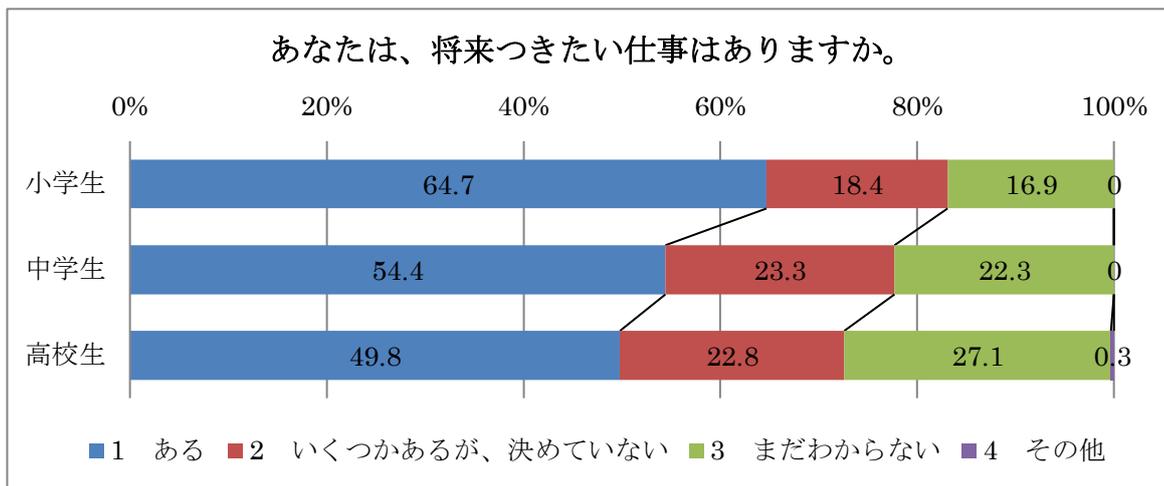
- ・トイレ
- ・おふろ
- ・ペットの前
- ・ふとんの中
- ・しずかな所
- ・本屋
- ・学校の教室

- ・ホッとできる場所として「① 自分の部屋」「② 家族と一緒に過ごす部屋」の順に回答する子どもが多く、家庭での居場所が子どもたちの安定にとって大切であることが窺える。
- ・「⑳ ホッとできる場所はない」と回答した子どもは、全体の0.5%にとどまった。
- ・自己肯定感の低い子どもほど、「㉑ない」と答える割合が若干だが、高くなるほか、「②家族と過ごす部屋」と答える割合が減り、「①自分の部屋」を好む割合が高くなっている。

問28 あなたは、将来つきたい仕事はありますか。



- ・将来つきたい仕事が「ある」「いくつかある」と答えた子どもは、全体の78%。
- ・年齢が上がるにつれて、「ある」と答える子どもの占める割合は減少し、「まだわからない」と答える子どもの割合が増加する。年齢があがるにつれ、将来の仕事について現実的に考えたり、視野が広がったりすることで、迷いが生じている様子が窺える。



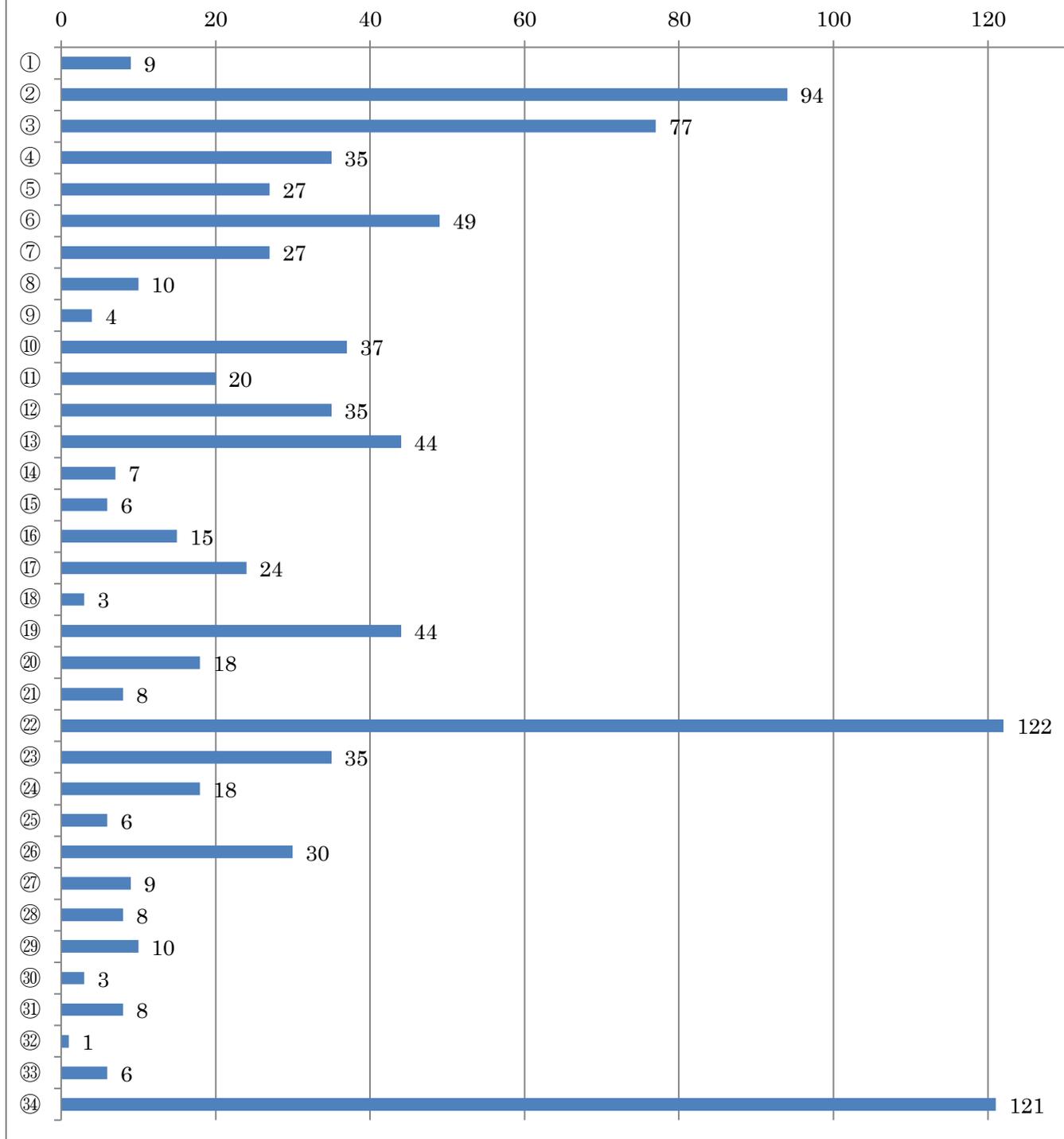
「4 その他」を選んだ子どもの記述内容

- ・ない。
- ・できる事なら何でも。

**問 2 9 それは、どんな仕事ですか。**

- ① 弁護士、裁判官、検察官      ② 医者、歯科医、薬剤師      ③ 看護師、介護福祉士
- ④ 獣医、動物飼育、ペットショップ、トリマー      ⑤ 警察官、消防士、自衛官
- ⑥ 幼稚園、保育園の先生      ⑦ 学校の先生      ⑧ 大学教授、科学者
- ⑨ パイロット、客室乗務員      ⑩ コンピュータ関係（システムエンジニア、ソフト開発等）
- ⑪ 建築士、設計士      ⑫ コック、調理師、栄養士      ⑬ 理容師、美容師
- ⑭ 通訳、翻訳家      ⑮ 会社の社長      ⑯ 会社員
- ⑰ 公務員      ⑱ 商店主など自営業者      ⑲ パン屋、ケーキ屋、花屋
- ⑳ 自動車整備士、自動車・電車などの運転士
- ㉑ 店員、販売員、ウェイター、ウェイトレス
- ㉒ スポーツ選手
- ㉓ 歌手、ミュージシャン、俳優、タレント、バンド、芸人、ダンサー
- ㉔ 画家、デザイナー、写真家      ㉕ 音楽家、作曲家
- ㉖ 作家、アニメ作家、漫画家、映画監督
- ㉗ 新聞記者、アナウンサー、キャスター、レポーター、テレビのディレクター
- ㉘ 土木・建築作業員      ㉙ 農業・林業      ㉚ 漁業
- ㉛ 職人      ㉜ 政治家（議員、市長、県知事、総理大臣など）
- ㉝ 宇宙飛行士      ㉞ その他

## それは、どんな仕事ですか

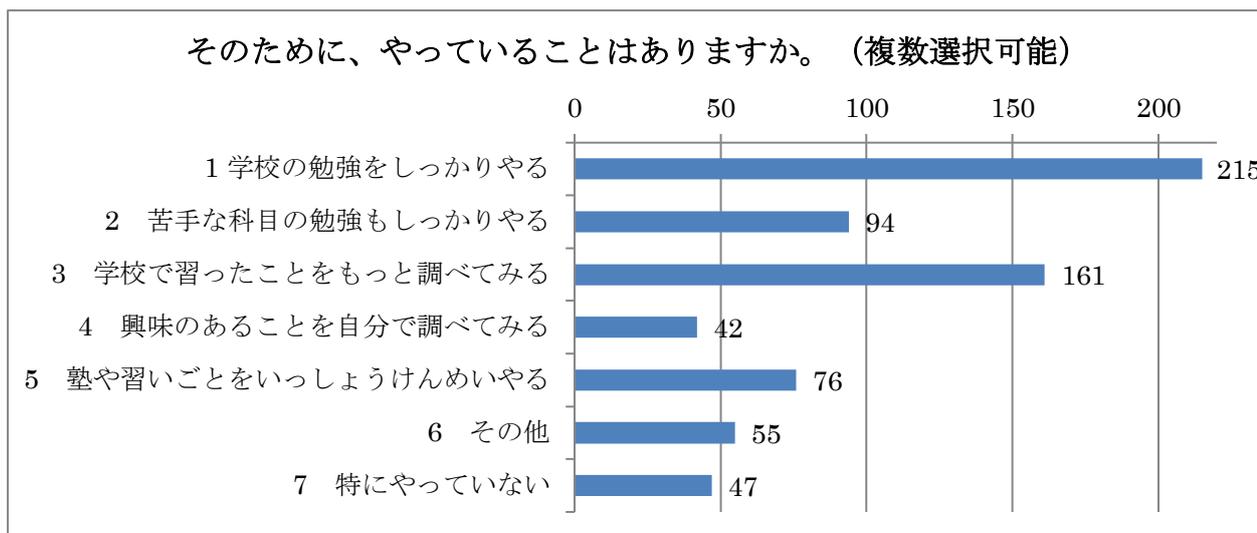


「㉞ その他」を選んだ子どもの具体的な内容（一部抜粋）

- ・本屋さん
- ・医学療法士
- ・テーマパークスタッフ
- ・ネイリスト
- ・楽器修理
- ・理学療法士
- ・製造業
- ・声優
- ・病児保育士

・将来つきたい仕事として「㉒ スポーツ選手」「㉒ 医者、歯科医、薬剤師」「㉓ 看護師、介護福祉士」を選ぶ子どもの順に多かった。

問30 そのために、やっていることはありますか。(複数回答可能)

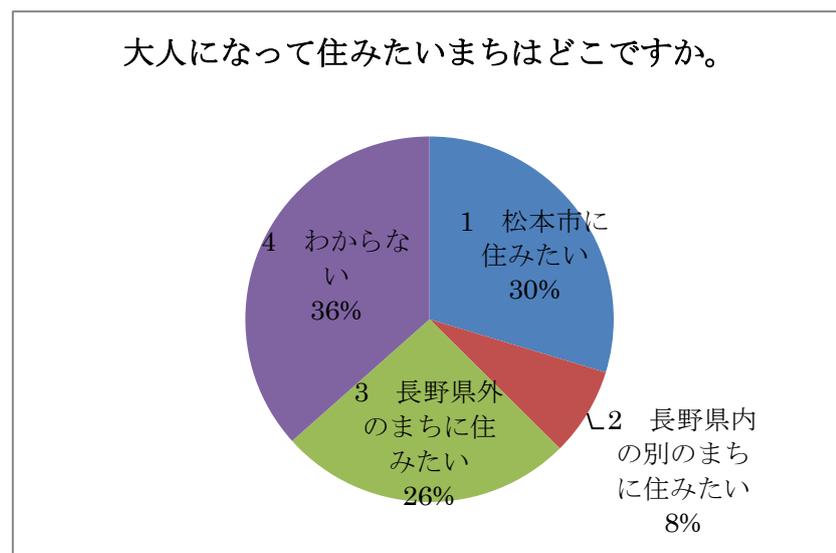


「6 その他」を選んだ子どもの記述内容 (一部抜粋)

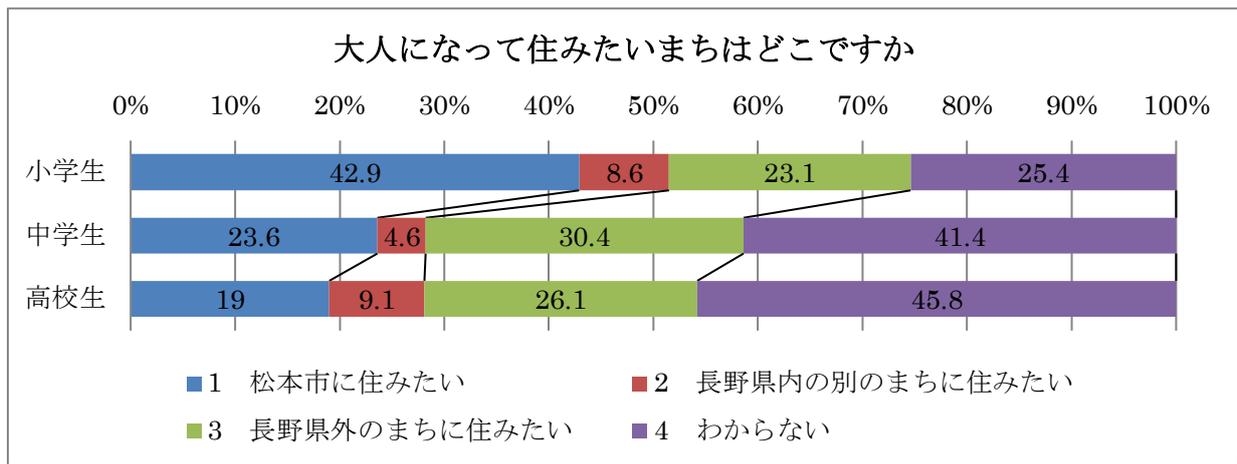
- ・たくさん練習する。
- ・できるだけ何事も本気でやる。
- ・人とたくさん触れ合う。仲良くする。
- ・やりたい仕事の店で、バイトをする。

・将来つきたい仕事につくためとして、「学校の勉強をしっかりとやる」「学校で習ったことをもっと調べてみる」と回答した子どもが多く、身近な学校の授業から理解を深めようとしている様子が窺える。

問31 大人になって住みたいまちはどこですか。



- ・大人になって住みたいまちとして「松本市」と答えた子どもは、全体の30%だった。
- ・年齢が上がるにつれて、「松本市に住みたい」と答える子どもの割合が減少する。対して、「進路が分からないから」等、将来を現実的に考えたり、視野が広がったりすることで、「わからない」と回答する子どもの割合が増加している。



**問3 1-2 それは、どうしてですか。**

「1 松本市に住みたい」と答えた子どもの記述内容（一部抜粋）

- ・松本市が好きだから。
- ・生まれ育ったまちだから。
- ・地元が一番安心できるから。
- ・住み慣れた所だから。
- ・自然が豊かだから。

「2 長野県内の別のまちに住みたい」と答えた子どもの記述内容（一部抜粋）

- ・いろいろな所に住んでみたいから。
- ・空気がきれいで自然がたくさんあるから。
- ・県外へ出るつもりはないが、松本市からは出たい。
- ・長野県では、これまでずっと育ってきたから。
- ・もっと自然の多い所で過ごしてみたいから。

「3 長野県外のまちに住みたい」と答えた子どもの記述内容（一部抜粋）

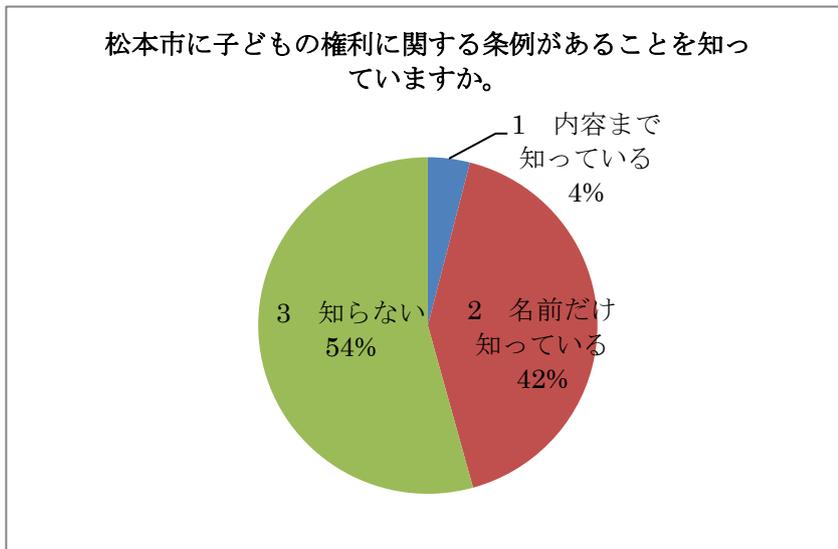
- ・他の県がどういうところか、あまり深く知らないし、より多くの人と会ってみたいと思ったから。
- ・自分の行きたい学校があるから。
- ・都会に住みたいから。
- ・外国へ留学したいから。
- ・長野県はつまらないから。
- ・やりたい仕事のために適した環境が県外にあるため。

「4 わからない」と答えた子どもの記述内容（一部抜粋）

- ・まだ住みたい街が決まっていないから。
- ・自分の進路が分からないから。
- ・仕事によって、どこに住むかわからないので、まだ決めていない。
- ・もっといろいろな場所を知ってから決めたい。

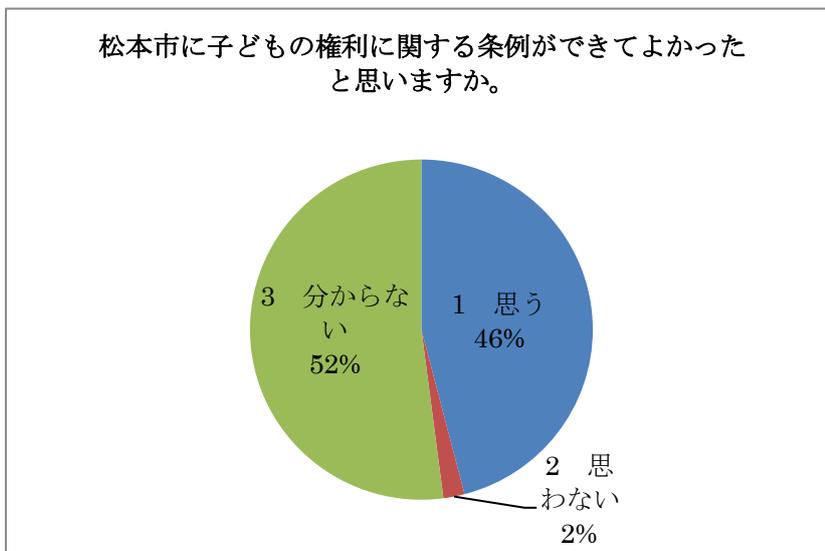
〔保護者へのアンケート〕 ※保護者へのアンケートはH27から開始

問1 松本市に子どもの権利に関する条例がある事を知っていますか。



- ・子どもの権利に関する条例について「内容まで知っている」「名前だけ知っている」と回答した保護者は、全体の46%だった。
- ・子どもだけでなく、保護者に対しても条例について周知に努める必要がある。

問2 松本市に子どもの権利に関する条例ができてよかったと思いますか。



- ・子どもの権利に関する条例についてできてよかったと「思う」保護者は、全体の46%。
- ・「思わない」と答えた保護者の多くは、条例が機能することへの疑問を理由に挙げている。

問3 問2で「1 思う」「2 思わない」と答えた理由。

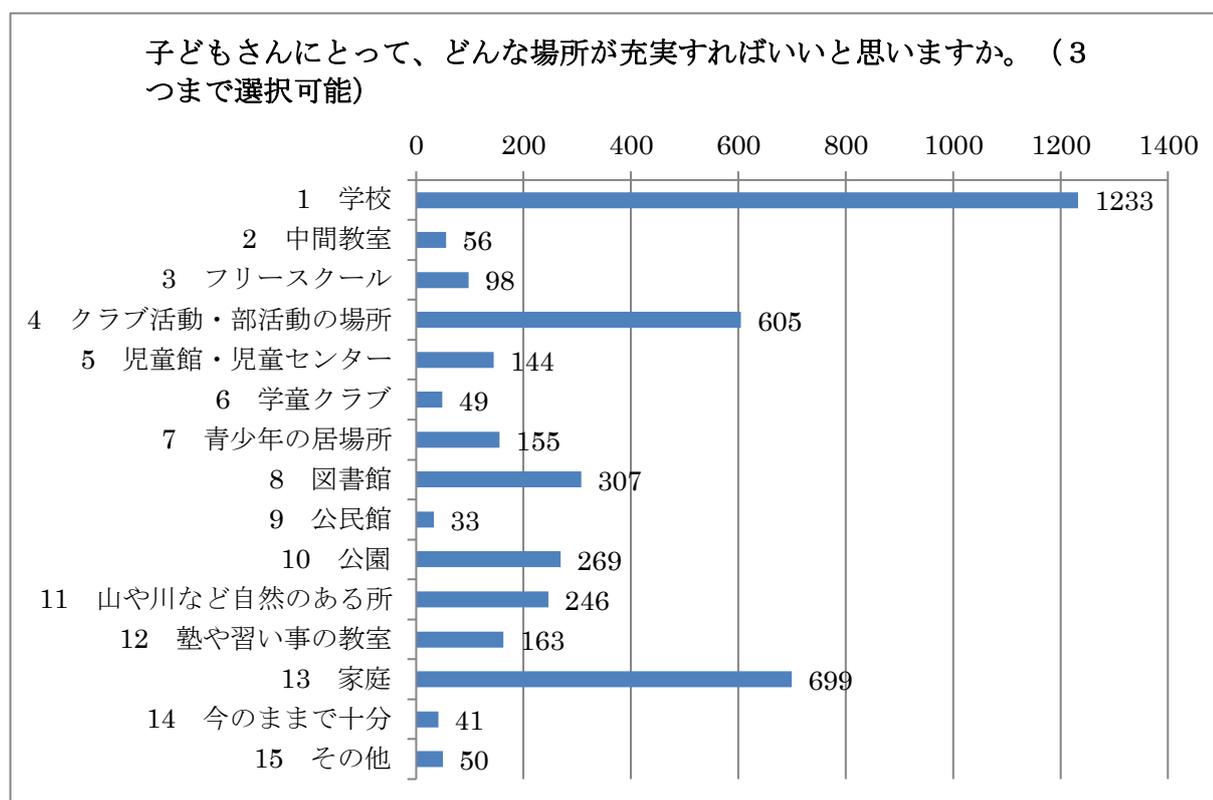
「1 思う」と答えた理由（一部抜粋）

- ・子どもがまちづくりに関わる、子どもが大切にされ自信を持てる街になる。素敵だと思うし、実現したい。
- ・市民が子どもの権利に関して、意識することができる。
- ・明文化されたことで、概念がはっきりした。
- ・条例ができたことで、「こころの鈴」相談室開設、はぐまつの設定など、子どもにとってもっともよい事は何かと考え、救済の場を増やしてきていること。
- ・子どもたちが健やかに過ごせるから。

「2 思わない」と答えた理由（一部抜粋）

- ・条例ができたところで、子どもが守られているとは思えない。
- ・生活の中で役立つとは思えない。
- ・機能しているとは思えない。
- ・条例があるから、と安心して具体的に権利をおかされている子供の救済があとまわしになりそう。

問4 子どもさんにとって、どんな場所が充実すればいいと思いますか。（3つまで選択可能）



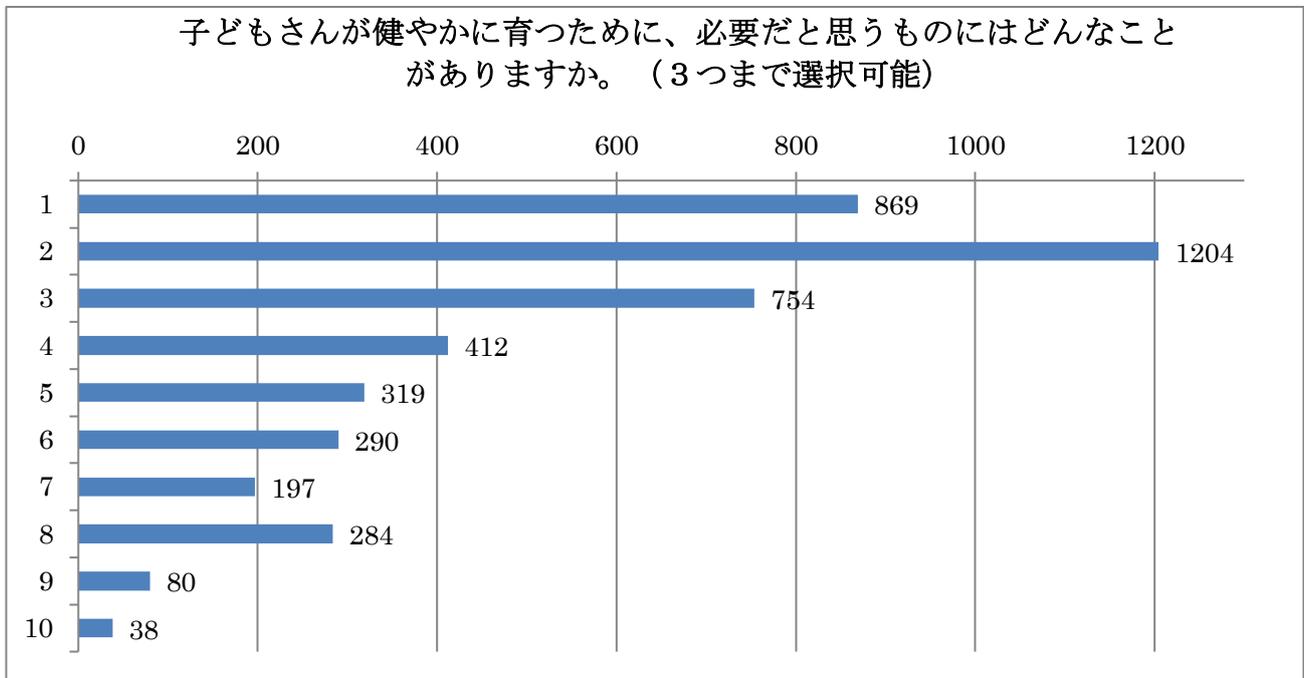
「15 その他」の記述内容（一部抜粋）

- ・交通機関
- ・各種の体験的なイベントや催し物。
- ・雨天でも運動できる場所や、様々な体験ができる屋内施設
- ・地域との関わり、隣近所でさえ年齢が違っていると会う機会があまりない。
- ・支援が必要な子どもたちを受け入れ、支援してくれる場所。
- ・放課後の活動場所

・子どもにとって「学校」が充実すればいいと答える保護者が最も多く、次いで「家庭」「クラブ活動・部活動の場所」と答える保護者が多かった。

問5 子どもさんが健やかに育つために、必要だと思うものにはどんなことがありますか。(3つまで選択可能)

- 1 学校での教育を充実すること
- 2 家庭での親子のふれあいをする事
- 3 子どもが社会や文化などに関するさまざまな体験をすること
- 4 子どもが自然に関するさまざまな体験をすること
- 5 子どもが地域活動やボランティア活動に参加すること
- 6 子どもが異年齢の子どもたちとさまざまな体験をすること
- 7 地域が犯罪や非行の防止活動をする事
- 8 犯罪や非行防止のための教育をすること
- 9 犯罪や非行防止のための規制を作ること
- 10 その他

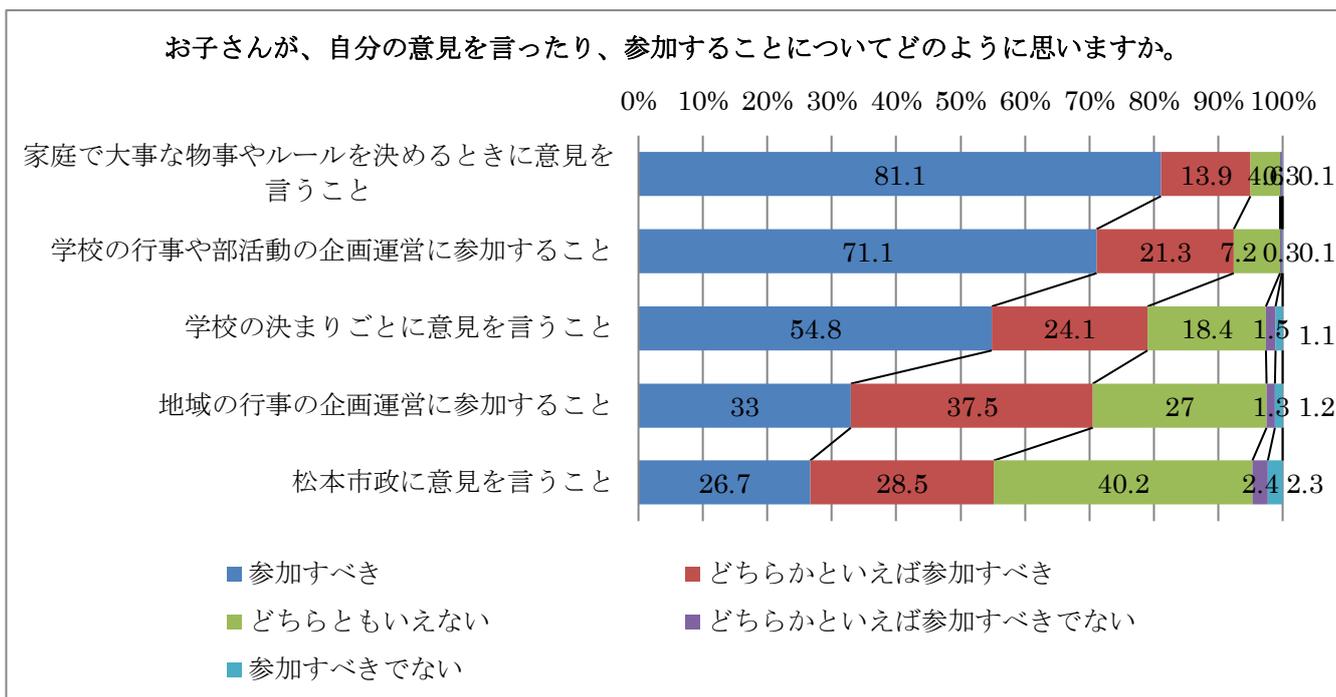


「10 その他」の記述内容 (一部抜粋)

- ・家庭でのしつけ
- ・大人の心が安定していること。
- ・家庭環境の充実
- ・家庭だけでなく周囲の大人が子供たちに関心を持つこと
- ・親でなく、尊敬できる大人と出会い、いろいろな経験ができること。
- ・安心して通える学校
- ・教員数と若年齢層の充実

・子どもが健やかに育つために必要なのは、「家庭での親子のふれあい」と答えた保護者が最も多く、次いで「学校での教育の充実」「社会や文化に関するさまざまな体験」が多かった。

問6 次の事柄を決めるときなどに、お子さんが、自分の意見を言ったり、参加することについてどのように思いますか。



- ・子どもが意見を言ったり、参加することについて、「家庭」や「学校の行事や部活動」といった、子どもにとって特に身近なことに関しては、90%以上の保護者が「参加すべき」「どちらかといえば参加すべき」と回答した。
- ・「学校の決まり事」「地域の行事」「松本市政」との順に「参加すべき」と回答する保護者の割合は減少しており、「どちらともいえない」と回答する保護者が増加している。
- ・全項目について、「参加すべき」「どちらかといえば参加すべき」と回答した保護者の割合が半数以上を占めており、「どちらかといえば参加すべきでない」「参加すべきでない」と回答した保護者の割合は、全体の1割未満にとどまっている。
- ・以上から、「どちらともいえない」保護者も多いが、子どもが社会に参加することについて肯定的な保護者は多く、「まつもと子ども未来委員会」のような機会の確保が重要である。